ローカス ナビブックシリーズ

ムーンライトシンドローム

moonlight Syndrome

深層心理ファイル

前作トワイライトシンドロームからの予習はもちろん
「設定資料」から「心理学講座」まで
ムーンライトシンドロームを徹底追求した完全攻略本!

LOCUS

HUMAN ENTERTAINMENT
HUMAN

ローカスナビブックシリーズ

「ムーンライトシンドローム」
Moonlight Syndrome

深層心理ファイル

LOCUS

HUMAN ENTERTAINMENT
HUMAN

【ムーンライトシンドローム】
Moonlight Syndrome

深層心理ファイル

CONTENTS

CONTENTS

序章
トワイライトシンドローム

トワイライトシンドローム の 世界

発売後、かなり経つにも関わらず、未だに根強い人気の「トワイライトシンドローム」。リアルな画像と共に、個性的で魅力あるキャラクターもその人気の要因と思われる

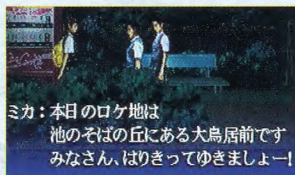
長谷川 ユカリ

逸島 チサト

岸井 ミカ

上に紹介されている男まさりのユカリ、霊感の強いチサト、ミーハーなミカの3人が主な登場人物。ミカの好奇心によって事件に巻き込まれていくことが多い。この辺りの設定はきちんと「ムーンライトシンドローム」にも受け継がれている。

よく見る風景が……

ここで紹介される噂はすべて、誰もが一度は足を踏み入れたことがあるはずの場所が、舞台となっている。学校、駅、公園……あなたも似た噂を耳にしたことがあるのではないだろうか。現実では噂はただの噂でしかなかったという場合が多い。しかし、噂が噂でなかった時、あなたならどうする……？

◀ 軽い気持ちで夜、探検に出掛けると……

▶ 怪談の舞台は身近な場所ばかりだ

探索編

はじまりの噂

このゲームのプロローグともいえる「はじまりの噂」。内容的には短いが、その不気味さや怖さは本編にまったくひけを取らない。とくに最初ということもあって、インパクトはかなりのものだ

▲どこの学校にもあるであろう七不思議。その真相を確かめようと深夜の学校に集まった

合言葉は……

目的のトイレ前に到着した３人。しっかりと封印された扉が、噂の信憑性を増していく。花子さんを呼び出す方法は、ドアの前で３回まわり、ノック３回……だが、応答はない。今度は３回まわって「キック、キックトントン、キックトントン」……やはり変化なし、しょせん噂だったのだろうか？　あきらめて引き返そうとしたとき、なにやら背後に不気味な気配が。振り返るとそこには……

◀いくら逃げてもいつの間にか前に……

▶追い詰められた3人。絶体絶命!

うわさのトイレ

学校のトイレに花子さんがいる。こんな話を誰もが一度は耳にしたことがあるだろう。例にもれず、この雛城高校にも「花子さん」の噂は存在した。この噂話を確かめようとする、半信半疑の女子高生３人組。ほんのささいな好奇心からの行動だった。深い考えなど何もない。まさか彼女たちにとってこの日が一生忘れられぬ日となるとは……彼女たち本人も、この時はまだ気づいていなかった。

◀いつのまにか背後に少女が！リアルな声とあいまって猛烈な恐怖に襲われる

少女から逃げろ！

いくら逃げても振り切れない、階段は降りても降りても下の階に着けない。次第に３人は追い詰められていく。自分たちで呼び出して逃げるのも変な話だが、彼女たちにとってはほんの好奇心だったのだ。まさか本当に出るなんて……逃げ回っているうちに屋上へ出た。背後から少女が迫る。３人の運命やいかに！？

第一の噂

心霊写真量産公園

ミカが入手して来た心霊写真。その真相を確かめるべく、3人は深夜のＩ公園へと向かった。怪談話の絶えないこの公園は、それにふさわしい、なんともいえない雰囲気を漂わせていた

◀ミカの持って来た心霊写真。本物なのか

▶深夜の公園に集合。あたりは真っ暗

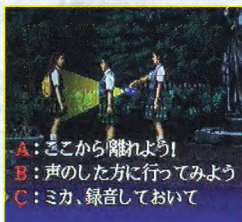
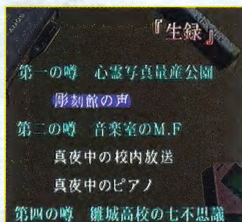
うわさの心霊写真

ミカの持つ心霊写真を撮った場所はＩ公園のこうべ橋。早速、あちらこちらで撮影を敢行する３人。さらにその奥に進むと、なんの変哲もない駐車場の入口に鳥居がポツリと立っているのを発見する。社らしきものはない。だが翌日深夜、再びこの場所を訪れると、昨日の静寂が嘘のような光景を目にしてしまう。

▲目的地はこの地図で確認しよう

▼駐車場が忽然と消えた!?この光景は一体……

恐怖の戦利品

目的が心霊写真だけあって、ここでは数々の戦利品を手にすることができる。写真だけでなく、録音したテープも保存が可能だ。これらはプレイ前の準備を選択するとすぐに見ることができる。

▲戦利品は写真だけでなく録音テープも手に入る

第二の噂

音楽室のM・F

学校の音楽室で、首吊り自殺した女生徒「M・F」。それ以来彼女は恋人だった音楽教師をそこで待ち続けているという。噂を確かめようと、深夜の音楽室に忍び込んだいつもの3人だったが……

「M・F」は音楽教師・奥田の恋人?

校内の音楽室で自殺した「M・F」ことフジタマユミ。動機について様々な噂が流れる中、彼女が音楽教師奥野の彼女だった、というものがあった。そして霊になった今でも彼女は先生が来るのを音楽室で待ち続けている、というのだ。そんな噂話に目がないミカたちは……?

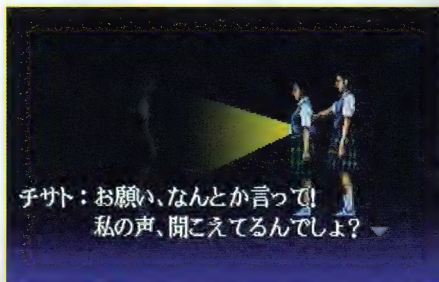
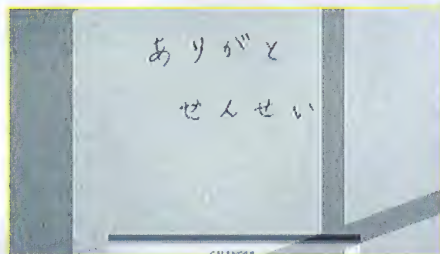
◀深夜の校内。人の気配がなく不気味

▶準備室を物色する3人。収穫は……

目に見えぬ恐怖

深夜の校舎というのは、とにかく不気味。教室に入るだけでもビクビクしてしまう。この話が他の噂と違うところは、霊の姿をほとんど目撃できないという点。いるのが分かっているのに見えないというのがまた恐怖を誘うのだ。

深夜に響くピアノ

張り詰めた空気の中に突然、鳴り響くピアノ曲。校内中に流れるM・Fを呼び出すアナウンス。リアルな音声に思わず息をのむ瞬間だ。さらに薄暗い音楽室の中、ミカに乗り移ったM・Fとの会話は、画面に引き込まれるような迫力がある。音楽準備室のカレンダーの裏の落書きなども恐い。

◀ミカに乗り移ったM・F。なんとかミカを助けようと2人の説得がはじまる

◀なかなか見られない大吉のエンディング

最大の難関とは

探索編のゲーム中で一番難易度が高いと思われるこの噂。大吉を見ることは容易ではない。細かい分岐が設定されていて、ちょっとの対応の差でエンディングが大きく変わってくるのだ。ポイントさえつかめば、その後はだいぶ楽になる。

第三の噂

最　終　電　車

不自然なほどの死者が出るという村山台駅。何度もテレビの取材がきている有名なミステリースポットだ。毎度の好奇心で心霊写真撮影に出掛ける3人。深夜の駅はいかにも出そうな雰囲気で……

深夜の駅を探検

駅員がいなくなるのを待って構内に忍び込んだ3人。ミカいわく、この小さな駅のあちこちに心霊スポットがあるらしい。確かに階段の裏に、ポツンと花が生けてあったりと何だかただならぬ雰囲気。これは意外と本物かも……そう思い始めた瞬間、誰もいないはずの駅にいくつもの人影が。これは全部幽霊なのか……？

▲物陰にポツンと置かれた花が不気味。深夜の駅は人気もなくただ恐怖を誘う

▲反対ホームから声をかけてくる人なつっこい男性。実はこの人も幽霊だ

幻の4番線ホーム

順調に進めれば中盤で、あるはずのない4番線ホームが現れる。さらに終電がとっくに出た後にも関わらず、これから列車が到着するというアナウンスが流れ出す。帰ったはずの駅員もいつの間にか現れ、今くる列車の行き先は夕闇が丘だという。そんな駅名は聞いたことがない。なにかヘンだ。チサトはしきりに帰ろうという。

列車の正体とは

実はこの列車、乗れば凶、乗らなければ大吉という両極端なエンディングにつながっている。実際にプレイ済みの人も多いかと思うので明かすが、この列車、死者の魂を運ぶ幽霊列車だ。後に現像される写真にもその証拠は写っている。また、途中ではミカが列車に轢かれそうになるシーンがあるが、ここで避ける方向を素早く決めないとゲームオーバーになってしまう。

駅で撮れた数々の心霊写真。画面で見ればより鮮明に確認することができる

第四の噂

雛城高校の七不思議

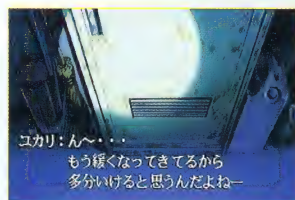
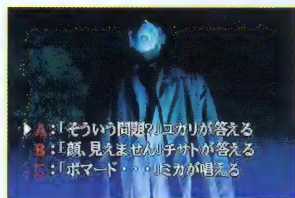
第4の噂は「雛城高校の七不思議」。この話は数々の点が、他とは大きく異なる。さらに今までの怪談話とはちょっと毛色が違う。ここまでのイメージが変わる人も多いかもしれない

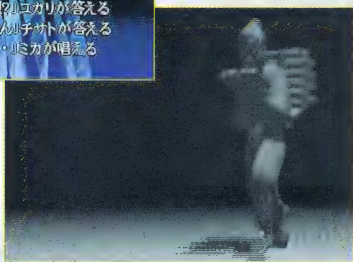
時間制限!?

この噂の最大の特徴は制限時間があること。40分以内にオールクリアしなくてはゲームオーバーになってしまう。全部の噂を素早く確かめなければ、エンディングを見られない。マップが広いが、それさえなんとかすれば難易度は低い。

▲唯一タイムオーバーがあるこの噂。校内を迷っているヒマはないぞ。急げ!

▲生物準備室にある骨格の標本の噂。その真相はいかに

▲これが恋人の頭部が埋め込まれているという石膏

▲彼女たちは至るところで傍若無人ぶりを発揮する

◀呪いのイベント。大切な分岐だ

▶大吉のエンディング。最大の見せ場!?

チャンチャン……

ここでの大吉エンディングは風変わり。オカルトというよりギャグに近いオチがつく。これは今までの噂にはなかった展開、一見の価値ありだ。制限時間内にクリアができなかったり、真相を確認できない噂があると呪いのイベントが発生する。イベント内の会話の分岐によって小吉などのエンディングに推移していく。

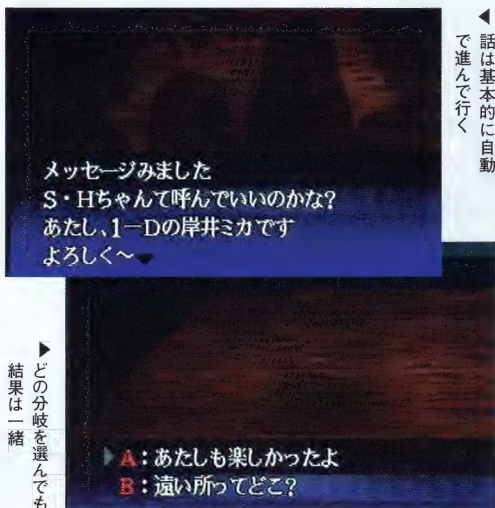
もうひとつの噂

究明編のプロローグであると同時に、探索編のエピローグになっているこの噂。ほんの冗談でミカは「S・H」と名乗る人物と文通を始める。だが続けるうち、不審な点が目立ちはじめて……

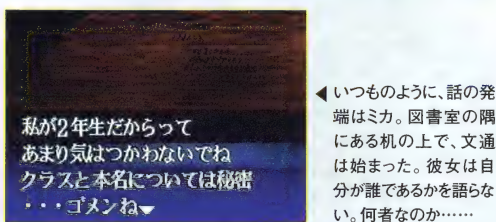
図書室の彼女

たまたま訪れた図書室の机に、手紙のような落書きを見つけたミカ。面白半分に返事を書いてみた。翌日、図書室に再び行くと、ミカに対する返事が書き込まれていた。相手の名前は「S・H」。恥ずかしいからとクラスも名前も教えてはくれない。ただ、体があまり丈夫でなく、いつも図書室にいるとあった。そんなやりとりが数日続くと、次第に「S・H」の不審な点が目立ちはじめる。いつも図書室にいるといっているわりには、今まで見かけたこともない。ユカリたちはミカに、文通をやめさせようとするが、ミカが耳を貸すことはなかった。

◀話は基本的に自動で進んで行く

▶どの分岐を選んでも結果は一緒

「S・H」の悩み

文通も何日か経つと様子が変わってきた。「S・H」は自分がもうすぐ死ぬと言い出したのだ。湿っぽい話がイヤなミカは、悪い冗談と相手にしない。だが、その内容は徐々にエスカレートして……

◀いつものように、話の発端はミカ。図書室の隅にある机の上で、文通は始まった。彼女は自分が誰であるかを語らない。何者なのか……

◀学校の裏山にある古い社。その一角の崖にミカはいた。ボーッと宙を見上げる姿は普通でなく、動揺するユカリたち。すると突然ミカが……

そして究明編へ

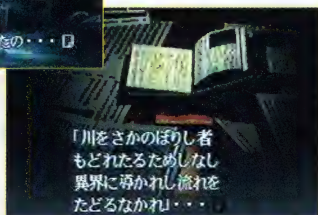
最後に会ってほしいと頼まれ、待ち合わせ場所に向かったミカ。不審に思ったユカリたちはミカの後を追う。高台の崖っぷちに立ち尽くすミカ。なんだか様子がおかしい。一体どうしたのか……

究明編

第五の噂

このシナリオは「探索編」の「もうひとつの噂」の後編部分に当たるシナリオである。「探索編」にてヒメガミサクラに連れて行かれたままのミカを取り戻すのが、このシナリオの最大の目的となる

◀ ミカはどこへ消えてしまったのか

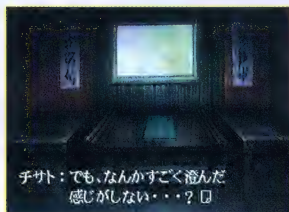
▶ 図書室で手がかりを探すユカリたち

果たしてミカは……？

ユカリたちの目の前で宙に消えたミカ。何らかの手がかりが残っているかもしれないとのチサトの提案で二人は図書室へ行くことになる。文献をヒモ解くうち、異界である雛代の杜へ行けばミカに会えるという結論に達する。そのころ、ミカはヒメガミサクラと対面していた。

ミカの元へと近づく２人

地下にあるお内裏川をさかのぼっていくと、やはりそこは現実とは違う世界であることがわかる。同じ所をさまよい続けるユカリたち。しかし、琵琶を弾く法師や鳥などの協力を得て、次第にミカの元へと近づいていく。そして、裏山にあるのと同じ社を見つけ出すのだった。

◀ 不思議な鳥に導かれ、奥へと進んでいく

▶ 情にほだされるとゲームオーバーに

◀ 悲しすぎる、サクラの日記の内容……

▶ あの切ない事実は一生忘れないだろう

現実世界へ戻すことができるか？

社の中には、ヒメガミサクラの日記が残っていた。日記からサクラの悲痛な叫びが伝わってくる。そして、この社がミカとヒメガミサクラのいるところにつながっていることがわかる。チサトに励まされ、必死で呼びかけるユカリ。ミカを現実世界へと戻さなければならない。

第六の噂

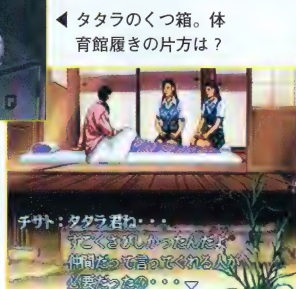
夕闇の少年

この「究明編」では、探索編に比べると重いテーマをいくつか扱っている。この第六の噂では社会問題にもなっている「いじめ」がテーマである。この世界ではどのように描かれているのか注目したい

◀ タタラのくつ箱。体育館履きの片方は？

▶ 今回、ミカ以上に積極的なチサト

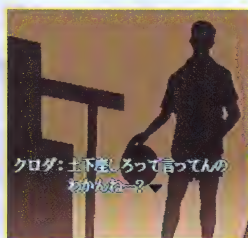
なぜ少年は自殺したのか

ミカの隣のクラスの「タタラキミヒコ」という少年が自殺をした。そしてその自殺の原因がいじめだという噂が流れる。そんなある日、部活で残っている生徒が体育器具庫でタタラの幽霊を見たという情報をミカがつかんで来た。早速３人は確認に行くことになる。体育器具庫をいろいろ調べていると彼は現れた。しかし、こちらからの質問には答えることなく消えていってしまうのだった。

タタラのクラスメートたち

タタラのクラスで、どんな事があったのだろうか……？　同じクラスだった生徒たちにいろいろ聞いてみると、やはりいじめはあったようだ。主犯格が２人いたことも判明する。そんな中、そのひとりであるクロダが体育館でケガをした。

▶ミカたちの話に聞く耳を持たないサエキ。主犯格のひとりである

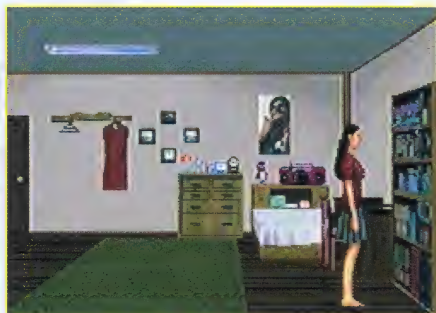
タタラの悲しみとは……

クロダと話しても、タタラの母親と話しても真実はわからない。タタラがどんな思いでいるのかどうしても聞きたかったチサトは、タタラの幽霊と接触する。それにより、チサトはサエキたちから受けていたいじめを追体験して倒れてしまう。チサトにはすべてがわかった。なぜ体育器具庫にいるのか、そしてなぜ自殺したのかも。あとは、サエキにそのことをわからせることができればいいのだが。

▶ ここでサエキをうまく説得しないと……

◀ サエキたちはこんなひどい事を……

第七の噂

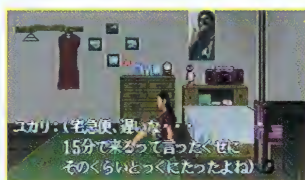
テレフォンコール

ある日、ユカリのもとへ、不思議な電話が入る。それはただのイタズラなのか、それとも死者からの伝言か……。真相は忘れ去られていた「ユカリの過去」をひも解くことによって解明されていく

◀このシナリオはほとんどユカリの部屋だけで展開していく

変なことが一度に……

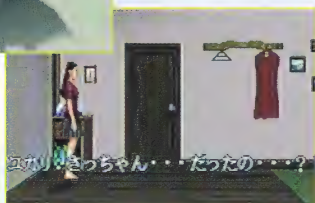
ユカリが帰宅し、ラジカセのスイッチを入れるが、突然そのラジカセが壊れてしまう。タイマーの時計を合わせようと時計を見ると、時計まで止まっていることに気づく。そんな時、電話がかかってくる。女の子の声で「あのね……」と言い続けてくるだけのもの。ユカリは何度も問い返すが、答えは同じようだ。

何かがおかしい

宅配便から電話があり、15分後に荷物を持ってくると言うが、15分以上たっても来ない。しばらくしてからまた電話があり、行ったが留守だったと言われてしまう。ずっと部屋から出てないユカリは困惑する。その後、チサトから電話があり、例の電話がユカリ自身の過去に関係があるのでは……と教えてくれる。

◀宅配便なんて来なかったのになぜ……？

▶こういう時、頼りになるチサト

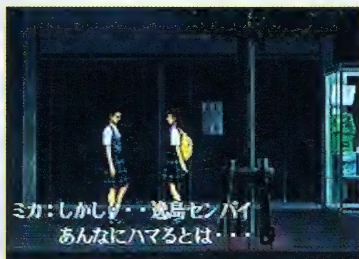
◀病弱なさっちゃんとの事を思い出す

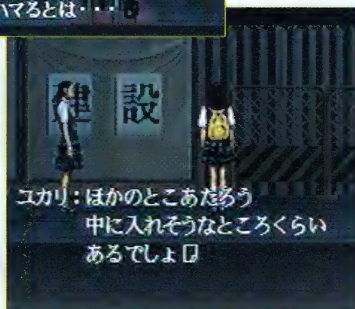
▶小さい頃の約束を思い出したユカリ

忘れていた過去とは

小さい頃のアルバムを見てみることにしたユカリ。そこには小さい頃のユカリとチサトが写っている写真があった。その後、母からの電話があり「子供の頃仲良くしていたさっちゃんが亡くなった」と聞かされる。あの電話の声はさっちゃんだったのか……。あの頃に果たせなかった約束のことを言いたかったのか。最後に再び電話がかかってくる。

第八の噂

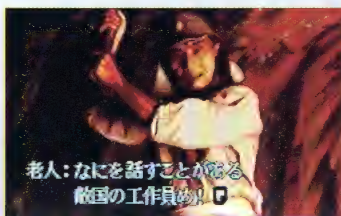
錆びた霏

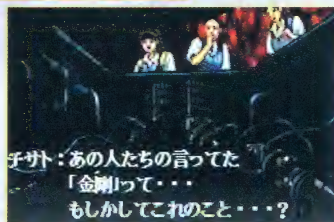
旧日本陸軍が残した巨大な防空壕が、このシナリオの舞台である。戦争がいまだに続いていると信じる老人と会う。しかし彼は、最後に自分の身を犠牲にする決断をくだすことになる

◀ チサトとは後で合流することになる

▶ なかなか入り口が見つからない

工事現場へ向かう3人

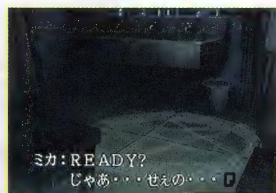
チサト・ユカリ・ミカの３人はカラオケに行くことにした。そのカラオケの途中、大量の人骨が発見されたために工事が中断された工事現場の話が出る。ミカは、埋蔵金が出るかもしれないと興味津々の様子。そこで、カラオケにハマってしまったチサトを残して、ユカリとミカはその現場を見に行くことにする。地下に入る入口を見つけ、降りていくことにする２人。通信設備の電源は入り、発電機は静電気を発している。なんだかまだ使われているような雰囲気である。

ここはただの工事現場ではない

しばらく歩いていると、ひとりの老人に出会う。が、戦争が終わっていることを知らないようなのである。彼は人造兵士「金剛鉄平」に勝利への夢を思い描いてここで生きてきた。そんな彼を説得できるかどうかが「大吉」エンディングへのカギとなる。戦争は、もう50年以上も前に終わっていること、日本がアメリカに負けたこと、そして原爆のことなどを説明すると「金剛鉄平」は暴走を始める。老人は３人に逃げるように言い、彼自身はそのままその場に残った。

◀ なぜか老人とは話がかみあわない

▶ 死者をつなぎ合わせて作る金剛鉄平

第九の噂

オカルトミステリーツアー

この「究明編」の中で、一番ホラー色が濃いのが、このシナリオである。霊界と現界との間の門を開けてしまった3人。学校中に出没する霊たちを、もとの所に戻してあげることができるのだろうか

◀ 調べてきた「手まり歌」を3人で歌う

▶ これが開いてしまった霊界の門らしい

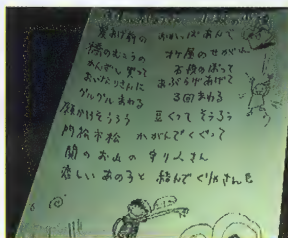
ミカが聞いてきた手まり歌

「はじまりの噂」で呼び出した、おかっぱの女の子。今回はこの子を別の方法で呼び出すことに。それは、手まり歌を歌うというものだ。実行してみたところ、女の子を呼んだのではなく霊界の門を開いてしまったようだった。この後、たくさんの恐怖の体験が待っている。

霊たちとの遭遇

水泳部員や、女の子の幽霊を見てしまったり、男性の笑い声が廊下中に響き渡ったり……と恐怖度が上がるポイントが数多く用意されている。また、ユカリはもう１人の自分に遭遇する。そして自分が殺していた感情を目の前で言われ、気絶してしまうのだった。

◀ 生物室でユカリが見たものとは……

▶ 渡り廊下で会うことが出来る少女

手まり歌の謎

アラマタに電話をすると、手まり歌の歌詞に問題があるということがわかる。しかし、その電話も途中で切れてしまう。これ以上は３人で分析するしかない。封印の儀式を行う場所を探すことが大切なようだ。無事儀式に成功すれば、校舎中に霊魂たちが集まってくる。

◀ この歌詞の言葉の意味を考えていく

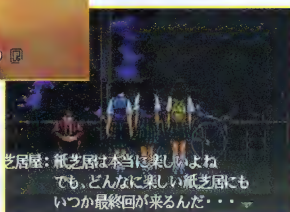
▶ 正しく分析できれば霊は帰っていく

第十の噂

裏側の街

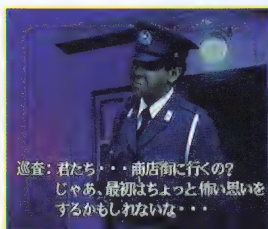
現世に未練を持った死者たちが、思い出をゆっくり忘れていくための街……それが、「裏側の街」である。ひょんなことからそこに紛れ込んでしまった3人の記憶も、次々と失われていく

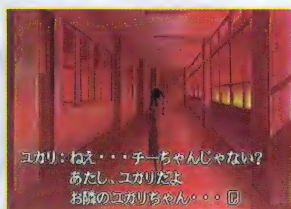
◀ この滑り台にどんな仕掛けがあるのか

▶ 並木道には昔懐かしい紙芝居屋が

今時、紙芝居なんて

ユカリの近所に住むチーちゃんという少女が、公園で行方不明になった。いつも滑っていたという「滑り台」を３人で滑ってみる。すると、同じ街なのだがどこか違う奇妙な場所に出てしまう。その街には紙芝居のおじさんや街頭テレビがある。それにしばらく歩いていると見慣れた商店街も何かが違っているのだ。

記憶がどんどんなくなっていく

その街にいる人たちは簡単なことを忘れているのだ。自分が何故ここにいるのかわからない人、この街がどこかわからない人……。歩いているうちに、３人も担任のことや両親のことなどの記憶を少しずつ失っていってしまう。座っているおばあさんに聞くと、ここは死者が記憶を忘れていくための街だという。

◀ このおまわりさんは何も覚えていない

▶ 老婆がこの街の本当の意味を語りだす

◀ 雛城高校でチーちゃんと会える

▶ 心の底に閉じ込めていたことが蘇る

ユカリだけが橋の向こうへ……

その後、川を渡る橋を見つける３人。一度渡ってしまうと、二度と現世には戻ることのできないというこの橋を、ユカリは渡って行ってしまう。渡るのをやめたチサトたちは再び街へ、ユカリは雛城高校へとたどり着く。校舎内を歩くにつれ、忘れかけていた両親のことなどを思い出すユカリ。彼女はおかっぱの女の子に会い、現世に戻してもらうのだった。

隠しシナリオ

そしてムーンライトシンドロームへ

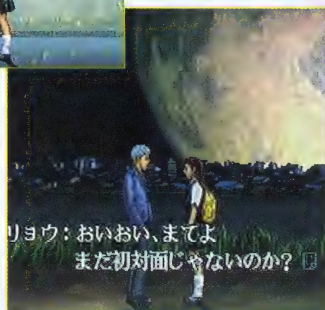
これは「トワイライトシンドローム」の「探索編」「究明編」を全て「大吉」でクリアすると見ることができる「Prank」。「ムーンライトシンドローム」への序章ともいうべきシナリオである

奇妙な世界に迷い込むミカ

いつものように学校に向かうミカを取り囲むように、突然、金色の風が吹き抜ける。チサトに話を聞くと、それは妖精の粉だという。いぶかしむミカ。学校からの帰り道、リョウという男と出会う。つい知り合いのように接してしまうミカ。しかし、その男とは初対面だった。彼は何故か朝の風と同じ匂いがした……。

◀いい匂いのする、すべてのはじまりの風

▶この男とは初対面のはずなのに…？

◀気がつくと、サエキとこんなことに？

▶果たしてこれも夢なのだろうか……？

果たして夢か、現実か……

頭痛と共に次々とあちこちの世界へと飛ばされるミカ。学校、夜の街……、そして、最後にはチサトに罵倒されてしまう。いつもと様子が違うチサト。しかし、ミカが体験した異変はそれだけではなかった。転校したはずのサエキとラブホテルにいたり、この世にはいないはずのヒメガミサクラが「チサトを殺せ」と言ってきたり……。また、家に戻ろうとするミカの前に血まみれのチサトが立ちはだかった。驚いたことに、チサトはミカの家族を殺したかのような発言をする。夢のような世界から抜け出した後、ミカの前に立っていたのはリョウだった。

COLUMN

エンディングまでクリアした人に向けて

トワイライトシンドロームとムーンライトシンドローム

変化の軌跡を追う

前作のトワイライトシンドロームは、主に心霊現象をテーマとしたソフトだった。ミカたちも好奇心旺盛な、割と普通の女子高生といえる。しかし、その続編となるムーンライトシンドロームは、人間の持つ狂気など心理学的なものを前面に押し出した作品に仕上がっている。暗い夜道で後ろから足音が聞こえたり、ストーカーにつきまとわれたり……。「現実」ならではの恐怖を味あわせてくれるソフトといえるだろう。

◀前作の隠しシナリオにもリョウが登場する

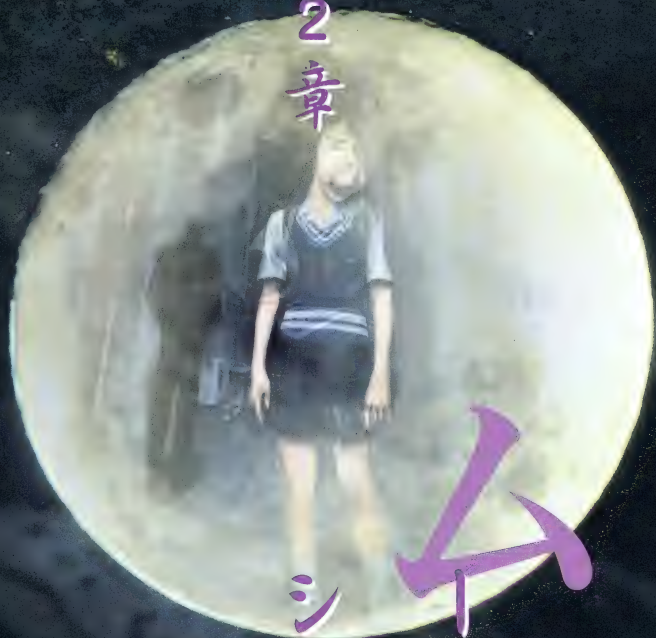
▶本作にもミカの夢という形で同じシーンが出てくる

▶トイレに住んでいるという、おかっぱの少女ハナコさん

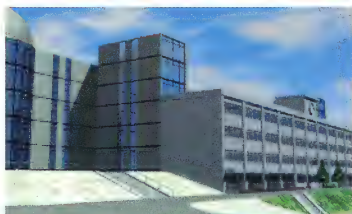
◀チサトの姿を借りて本作でも登場するおかっぱの少女

制作者の意欲を感じる作品

コンシューマの世界では、まだ「狂気」「精神病」などを扱ったゲームはそれほど存在していないと思われる。パソコンの世界ではこの限りではないが、18才未満禁止のソフトであることが多いだろう。心理学などの精神面について注目されはじめた今、このソフトの持つ意味はとても大きい。コンシューマ業界に対して挑戦的なソフトであるのと共に、ある意味では実験作ともいえるだろう。これからが期待される。

第2章
ムーンライトシンドローム
（前編）

前作に比べさらに美しくなった画面に、奥深い内容。いろいろな意味でかなりの改良がなされ、大幅にスケールアップされている。ここではその世界観について少し触れてみたい

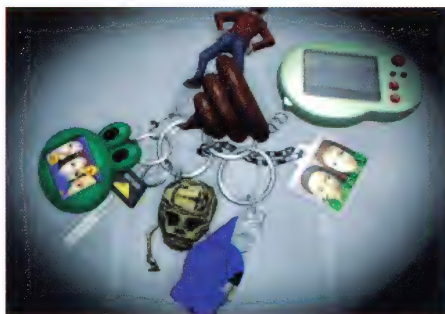
前作と異なる不思議な世界

本作は前作の雰囲気と大きく異なり、幽霊や怪談話は全く登場しない。前作の続編という意識が強いプレイヤーは、ちょっと戸惑うかもしれない。しかし、「非日常の世界」ということに関しては本作も同様だといえるだろう。いや、その点に関してはこちらの方が強いかもしれない。3人の主な登場人物は変わらないものの、その他に新たな謎のキャラクターが登場し、不思議な世界へ誘ってくれる。

◀今回も登場する雛城高校。新校舎は結構近代的

▲校舎の外には天文台が。これは完全に初お目見え

◀物語の途中、途中に登場する不思議な幻想の世界。誰の幻想か

前作よりも主人公的存在のミカ

主人公の岸井ミカは、雛城高校の2年生で、お決まりの茶髪にルーズソックス姿。いつも遅刻ギリギリに学校へ着き、ラクロス部に所属しているもののよくサボるというごく普通の（？）女の子。休日には友達とショッピングへ行ったり、夜はクラブに踊りに行ったりする。女子高生にありがちな軽いところはあるが、決して冷めた人間ではない。先輩を慕ったり、人を信じる心は持っている。

◀今時の女子高生らしく、プリクラなどもやりまくっているらしい

◀これがミカの住むマンション。結構高級そうだ

ミカの家はサラリーマンの父と、専業主婦の母との3人暮らし。プロローグにも登場するが、娘に理解を示そうとする割と優しいタイプの父と、勝ち気そうな母である。そんな両親を持つ彼女は、チサトや今回から登場するアリサのような不思議な力は持たない、本当にごく普通の現代っ子だといえる。だが、好奇心だけは人一倍強いといえる。前回同様、事件に巻き込まれてしまったのは彼女の影響といえなくもない。果たして今回はどんな結末を迎えるのだろうか……？

▶このエレベーターで8階と1階を上り下りする毎日

▶いわゆるごく普通の家族の食卓。どちらかといえばミカは母親似？

本作はほとんどといっていいほど激しい動きをしなくていい。移動もセーブ・ロードも難しいことは何もない。しいてこちらが行う重要なことは、会話の選択くらいだろう

方向キー：キャラクターを動かす
会話などの選択

○ボタン：決定
走る(押しながら)

スタートボタン
：オープニングムービーのスキップ

×ボタン：シナリオセレクト画面のみキャンセル

移　動

本作は前作の「トワイライトシンドローム」よりかなり、立体的な画面構成になった。そのため、最初はドアの前に立ってもタイミングによっては入れなかったりすることがある。また○ボタンを押しながら進むと走ってくれる。ただし、キャラクターによっては走らない場合もある。

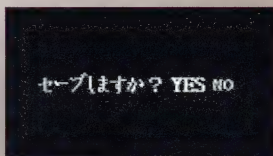
▲メインではリョウが、変わったところでは幽霊のチサトが走ってくれない

会　話

会話はストーリーを進めるのに重要である。基本的なストーリーは変わらないが、分岐によっては話の流れや展開が異なり見ることができないシーンも出てくる。ゲームオーバーはないが、選択は戻されてしまうこともある。会話の選択は、十字キーで選び○ボタンを押すだけ。

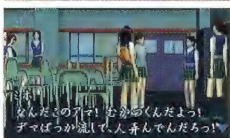
▲分岐は会話以外でも出てくることがある。慎重に選ぶことをオススメするぞ

セーブ・ロード

セーブの仕方は2通り。プレイ中にアラマタに出会うことと、ひとつの話が終了した時だ。前者の場合は、プレイヤーの意志でセーブ、後者の場合はオートでセーブされる。ロードはオープニング画面で、ロードを選択すれば自動的に行われ、好きなところから再開することがてきる。

◀ストーリー中は自分の意志でセーブ

▶ロードはオープニング画面で

本作では様々な舞台でストーリーが展開していく。トワイライトでもメインとなっていた「雛城高校」はもちろんムーンライトでも健在だが、それ以外の場所も多いからチェック

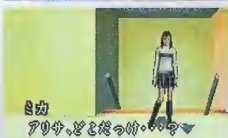
1 PROLOGUE～プロローグ～

ここでの舞台は主にミカの身辺だ。初登場の自宅と家族。そして学校。ここではミカを中心に展開していく。

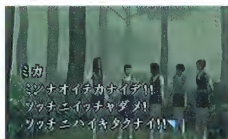
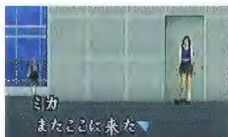
2 MOWDEI ～夢題～

トワイライトの隠しシナリオで登場したリョウ。ここでは彼の自宅と行きつけのクラブが主な舞台となる。

3 SOWGUW～奏遇～

この話はほとんど学校内で展開していく。学校内にある部室は、新たに追加された場所の一つだといえる。

4 HENSHITSU ～変嫉～

変態が立ち並ぶ奇妙な通り。ここを抜けると、ミカが友人と待ち合わせした霜北の駅へと舞台が移る。

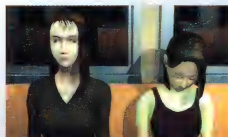
5 HENLIN ～片倫～

ここでも学校が舞台となる。ただし、校内は迷路のようになってしまっている。そこを抜けると……？

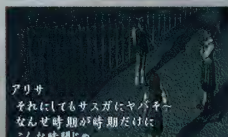
6 FUYOU ～浮誘～

ミカの住むマンションに隣接した「高層団地」。そこで連続する中学生の自殺が、この話の中心となる。

7 DENPOW ～電破～

リョウがよく行くクラブにはミカも頻繁に通っていた。ここではそのクラブと、雛城高校が交互に登場する。

8 KAIBYO ～開扉～

ここでの話は駅のホームから電車の中が中心。ただし、普段とは違う、奇妙な電車の中が舞台である。

9 DOWAKU ～慟悪～

ここでは再び雛城高校の校内が中心となる。ただし、いままで行けなかった天文台など、行ける場所が増える。

10 EPILOGUE ～エピローグ～

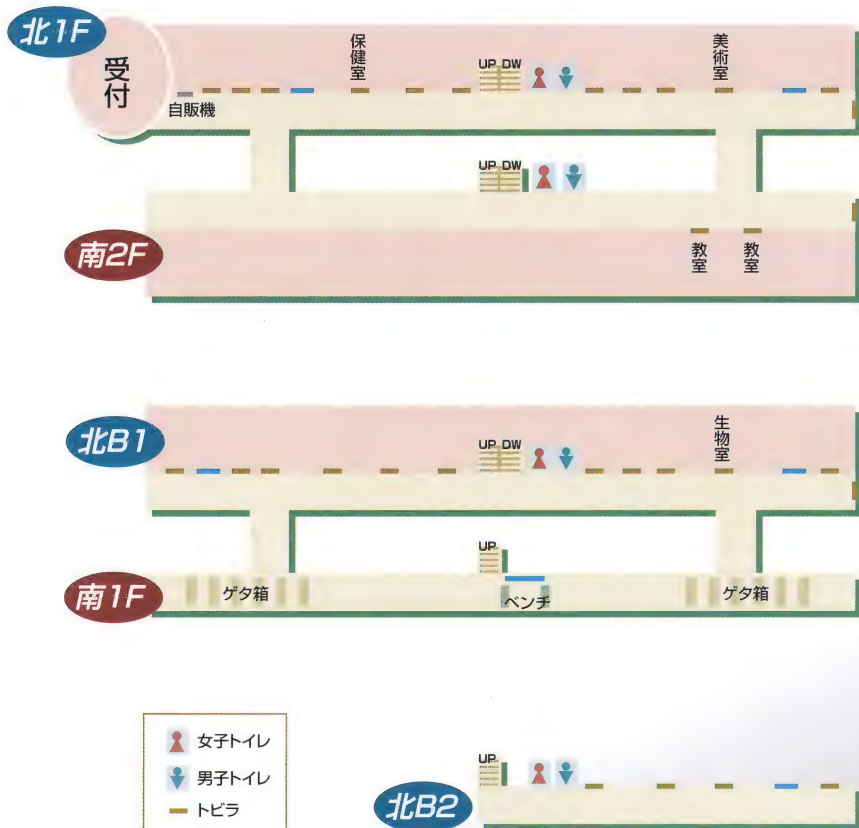
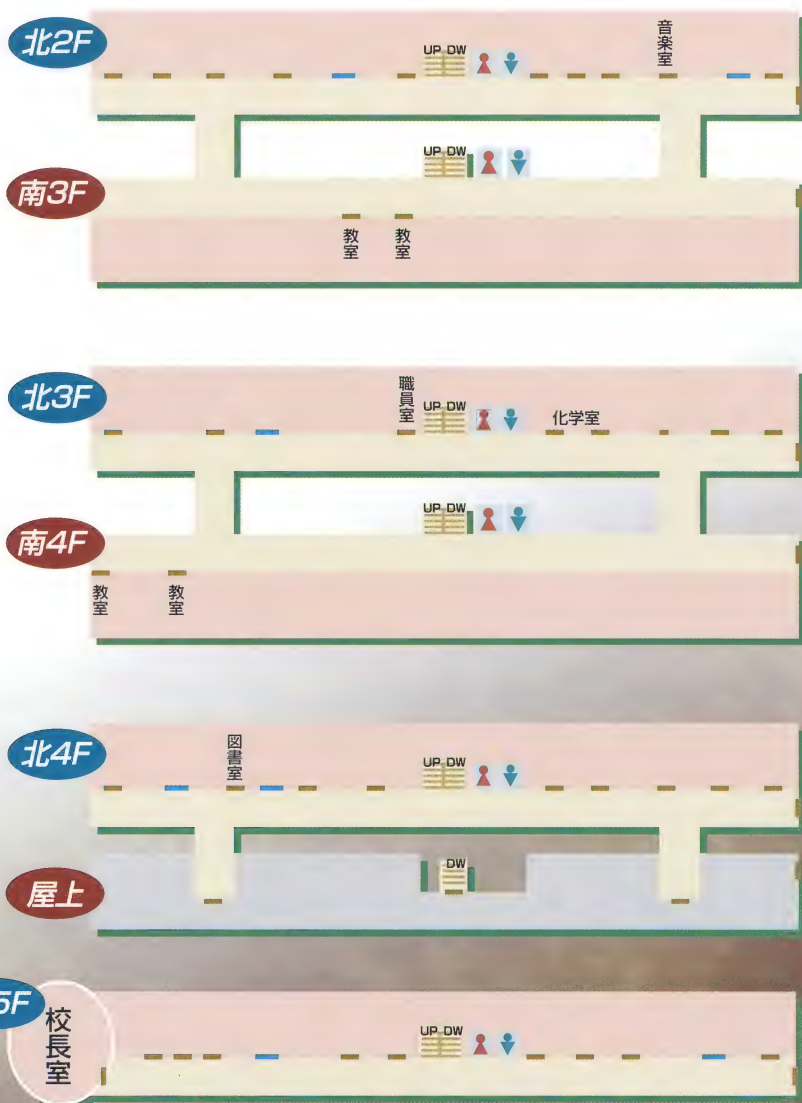
物語の最終決戦は学校内で始まる。校内や校庭、至る所に主要キャラクターが集結し、その終焉を迎える。

学校のMAP

北1F
受付
自販機
保健室
UP DW
美術室
UP DW
南2F
教室
教室

北B1
UP DW
生物室
UP
南1F
ゲタ箱
ベンチ
ゲタ箱

女子トイレ
男子トイレ
トビラ
掲示板
UP
北B2

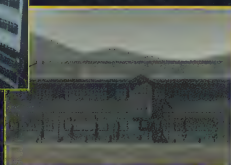
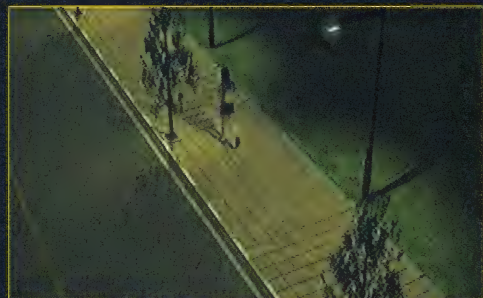
北2F
UP DW
音楽室
UP DW
南3F
教室
教室
北3F
職員室
UP DW
化学室
UP DW
南4F
教室
教室
北4F
図書室
UP DW
DW
屋上
北5F
校長室
UP DW

プロローグ
PROLOGUE

MOONLIGHT SYNDROME

新たな恐怖の幕開け。最初の話だけに重要な部分だといえる

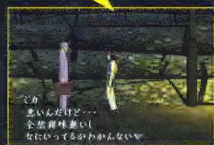
取り壊された旧校舎

ミカたちの通う学校の旧校舎が取り壊されていく。土台が崩れ、じきに校舎全体も次第に崩れ落ちていく。辺りから埃が舞い上がっている。

◀ゆっくりと、でも確実に崩れ落ちていく旧校舎

▶木造の古い建物。どれくらい前まで使われていたのか

▲学校帰りに遊びに行ったのか、辺りは暗く、あまり人の気配もしない

▼歩道を進んでいくミカの後ろに、黒い影が動いている。イヤな予感がする

◀こういった選択によって相手のメッセージが変わる

▲例えば、この男に話しかけてみるを選択すると……

▲例えば、無視して帰ろうとするのを選ぶと……

奇妙な幕開け

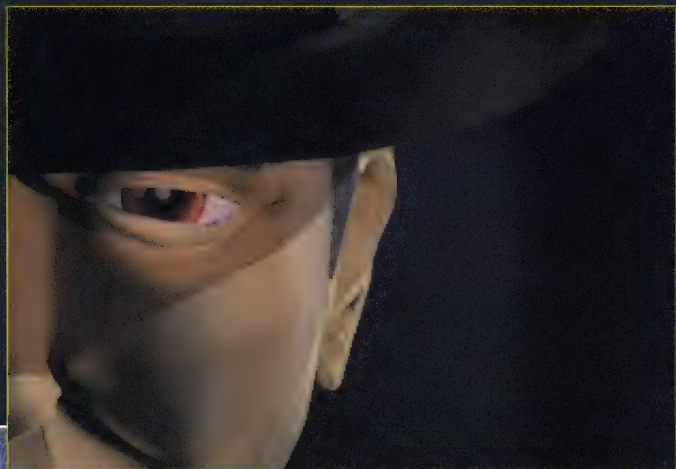
舗装された並木道を歩くミカ。学校から家に帰ってくる途中のようだ。辺りはすでに暗くなっており、ひとめで遅い時間ということがわかる。そのミカの後ろに何やら黒い影が……。振り向くと、この影の持ち主である男と対面することになる。振り向かないと会わないままのこともある。ここでは、分岐により相手の話す内容が少し変わる。しかし、どの選択肢を選んでもそれほど支障はない。会話が終わると男は忽然と姿を消してしまう。そして、どこからともなく聞こえてくる子供の笑い声がミカを襲う。

▲▶白髪の少年は意味ありげに笑っている。背格好はまだ幼い子供なのに、大人もたじろぐほどの存在感。彼はいったい何者なのだろう

◀小さくミカを呼ぶ声。無視してマンションに入るか

▶どこから呼ぶ声が聞こえるのだろう……？

アラマタ登場

ミカが自分の住むマンションの入口に入ろうとすると、自分を呼ぶ低い声が聞こえてきた。引き返して階段を降り、左側の方へ歩いていくと、そこには黒いスーツと黒い帽子を身につけた男が立っていた。はじめは変態かと思っていたミカだったが、そのうち誰だったかを思い出す。彼は前作にも登場した自称・心霊研究者＆作家のアラマタである。

◀前作では彼に電話でいろいろと教えてもらったこと、覚えているかな？本作では街のあちこちに出没し、物語の記録（セーブ）をしてくれるという、便利な存在に昇格している

◀この少女はトイレに出没した花子さん

▶昔生け贄にされた、ヒメガミサクラ

アラマタの長ーい話

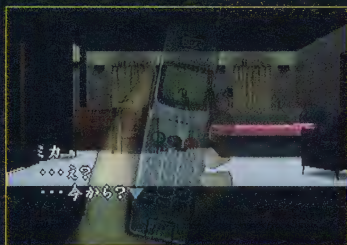
アラマタはこの街を研究しに来たと言う。彼はこの奇妙な街に興味があるらしい。いろいろと語るアラマタ。だが、それにしても相変わらず話が長い。閉口して帰ろうとしても、全てを聞き終えるまで先に進むことができない。アラマタは最後に自分の役割はこの街を観察することだと告げ、闇に消えていく。

ミカの住むマンション

アラマタは去っていった。アラマタと話すと長くなるとひとりごちるミカ。時計を見るともう大分遅い時間だった。急いで帰らなくてはならない。ミカは急いでマンションに引き返す。マンションの中はすでに暗くひっそりとしていた。ミカの家は、降りた階の右端の部屋だ。

▲気づくと、こんな時間になっていた。早く家に帰らなければまずい

◀家にたどり着いた。ホッとするひととき

▶今日はいろんなことがあって疲れた

家を抜け出すミカ

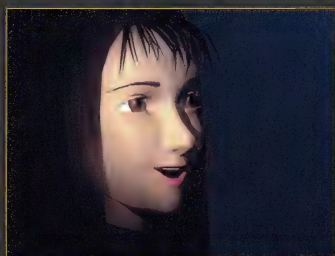
家に戻ったミカに、母親がおかえりなさいと声をかける。着替えてきなさいと言われて自分の部屋に行ったミカは、疲れたと言ってベッドに寝ころがってしまう。ご飯ができたという母親の呼びかけにも、いらないと答えるほどミカは疲れていた。音楽を聴きながらベッドで休んでいると、突然夜中にPHSの呼び出し音が鳴る。電話に出ると、相手の男に今から外で会わないかと誘われた。こころなしか嬉しそうなミカ。彼女はいつもの公園で会う約束をし、部屋を出た。このとき、少しでも走ってしまうと母親に見つかってしまう。叱られた後、強制的に部屋に戻されてしまうので、はやる心を押さえつつ、ゆっくりと歩いて外に出よう。

◀PHSを取ると、これから出てこいと誘いがかかる

▲ミカは、キョウコという人に似ているのだろうか

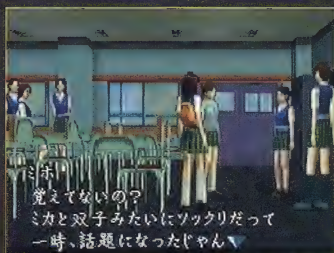
▶はじめはリョウに対していい感情を持たない

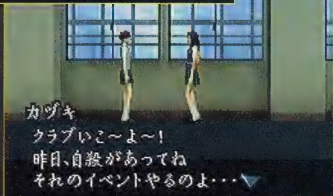
夜の公園

うまく家を抜け出したミカは、途中でリョウという黒い服を着た男に出会う。言葉こそ交わさなかったものの２人はそれぞれに何かを感じる。リョウはミカを姉のキョウコと見間違え、ミカはリョウのことを気持ち悪いと考えていた。約束の公園ではPHSの男がミカを待っていた。嬉しそうに笑いかけるミカ。会いたかったと、重ねて元気ないみたいだけど問いかけるが、男からの答えはない。男の顔は逆光になっており、何故かしら不気味に感じられる……。

▲ミカのこんな表情は初めて見る。よっぽど会いたかった相手なのだろう

▲ミカの彼なのだろうか。顔が影になってよく見えないので、どんな男だかわからない

キョウコ、死す

ミカが学校に行くと、教室が盛り上がっていた。話題は、麗月峠で昨日起こった事故のこと。キョウコという女性が亡くなったらしい。その女性はこの学校の卒業生で、ミカにそっくりだと当時話題になった先輩だった。クラスメートのルミの兄がキョウコとつき合っていたらしい。何故か、それを聞いて暗くなるミカ。そのルミは今日は学校を休んでいるらしい。その後、ミカが窓の外を眺めているとカヅキがクラブに誘ってくる。しかし、ブルーなミカはカヅキの誘いを断った。

▲ミカは自分に似たキョウコのことを忘れている

▶ミホと言い争ったミカを慰めにきたカヅキ

◀リュックを探っても、カギは見つからない

▶落ちていたと言って鍵を渡してくれる少年

なくしたカギ

マンションへの道を歩きながら考えごとをするミカ。いつになく弱気だ。通りすがり、管理人に挨拶をするが、相手はミカを無視して行ってしまう。家の前までやってきたとき、ミカは家のカギがないことに気づく。リュックの中を探していると、白髪の少年がやってきて、落とし物だとカギを渡してくれる。

一家団らんのひととき

家のリビングでミカは家族と話をしている。白髪の少年のことを母ミナヨに尋ねるが、彼女は上の空。そんな時、ミカの父がテレビに流れているニュースを指して、これはミカじゃないのかと驚いた。テレビからは華山キョウコが事故に遭ったと流れてくる。その事故現場に写っているのは……まさかあの時の少年?

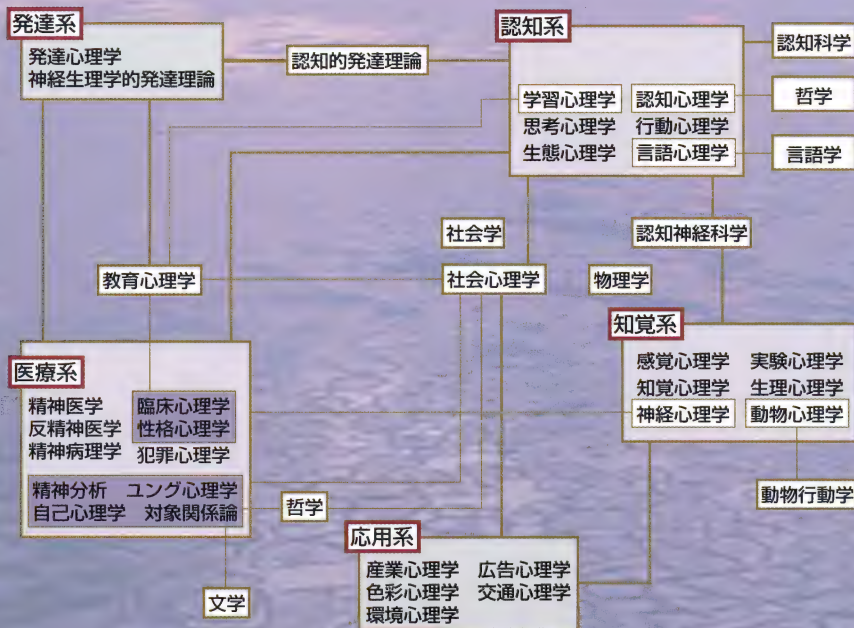
▲意外にもミカに理解を示そうする父。それに対して割と冷静な母親

華山 響子さん(18)

▶テレビに映る事故現場。どこかで見たことがあるような2人が……?

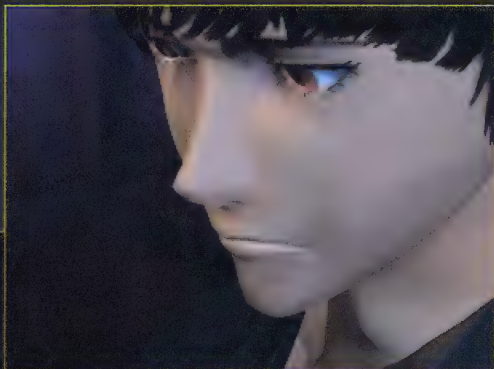
心理学講座

1 心理学とは何か

心理学は心という目に見えない動きを研究する学問である。研究テーマによって細かく別れているが、心理学は大きく「知覚系」「認知系」「発達系」「医療系」「応用系」の5つに分類することができる。知覚系は、心が感覚を通してどのように外の世界とつながっているかを調べている。認識系は知覚系ともつながりがあるが、五感を通して入ってきた情報をどのように理解・記憶するのかを研究しているのである。発達系では人間がどのように成長するかの研究が主となっている。心の病気を扱う医療系は、精神医学とも呼ばれており、心理学の中でも最も有名な分野である。応用系は他の分野の研究成果を日常生活にどう活かしていくかという方向で、広告や労働環境の整備、見やすい道路標識の研究などに応用されている。

夢題 MOWDEL

今度はリョウ側の視点での行動。彼はいったい何者なのだろう？

リョウの見た夢

暗闇の浮かぶリョウ。姉であるキョウコからはリョウに本心を言ってくれと頼まれている。リョウとキョウコの姉弟らしくない会話は延々と続く。目覚め、夢の内容に自分は変態かと自嘲するリョウ。これは彼の妄想でもあるのだろうか？

◀仮にリョウがキョウコを守ると言ってもそれは違うと答えてくる

▲今のリアルな夢は、全てリョウの願望から生まれたのだろうか

◀鏡に向かって考え事をするリョウ

▶弱さは許されないとスミオは笑う

スミオという男

リョウの元に、スミオという男がやってくる。話からキョウコの元彼ということがわかる。スミオはいきなり、リョウを弱者だといって攻撃してくる。どうやらキョウコとうまくいかなかったらしい。キョウコがリョウから離れられないのはリョウが無神経だからと責めてくる。反論するリョウだが、スミオはキョウコと別れた原因はリョウのせいだと言いたいらしい。最後にスミオはリョウに執着すると言い残して部屋を出ていく。「くだらない」とリョウははき捨てるように言い、自分の部屋を出た。

◀無機質なリョウの部屋

▶クラブの前である女と出会う

▲リョウとルミは以前つき合っていたようだ。冷たい男だとリョウを非難するルミ

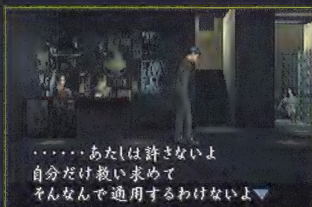
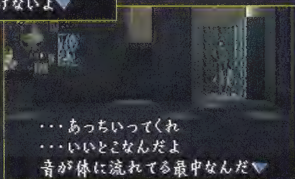
ルミの攻撃

リョウがクラブの前まで行くと、そこでルミという女性に出会った。ルミはスミオの妹であり、以前はリョウの恋人でもあったらしい。彼女は散歩にきただけだというが、リョウに会いにきたということは見え見えだった。リョウがスミオが家に来たことを話すと、ルミも兄は狂っているという意見に同調する。しかし、続けてルミはリョウのことも責め始める。自分を誰かの身代わりにして抱いていたのではないかと。ルミは感情に任せてリョウを責め続けるが、やがて諦めたようにその場を去っていった。果たしてリョウが身代わりにしていた女性とは……？

クラブの入口にいる男

ここのクラブは客の紹介がないと中には入れないらしい。入口でスミオの紹介だと伝えると、いちいち男は中と確認を取っている。リョウを警察関係かとも疑っているようだ。それほど危険なことをやっている店なのだろうか？

◀リョウが潜りに行く店の看板である

▶他の客の紹介でないと店には入れない

◀リョウや他の客に難癖をつける受け付けの2人

…あっちいってくれ
…いいとこなんだよ
音が体に流れてる最中なんだ

▶ロッカーのところで倒れている人にも話は聞ける

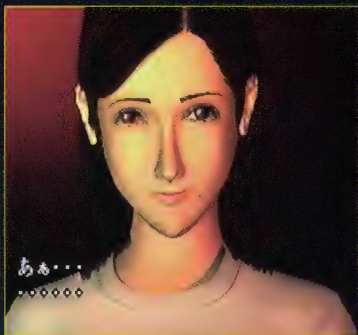
テクノのイベント会場

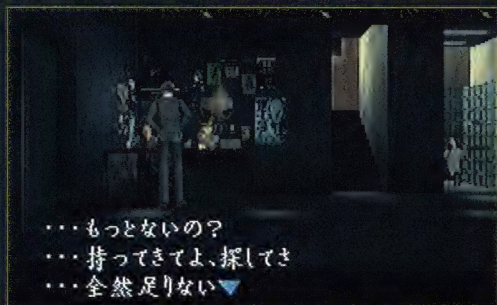
店の中に入ると、受付の２人に陰口を叩かれるリョウ。最初はリョウの服装をなじっていただけだが、なおも聞いていると、２人は自分たちの会話を始め出す。現実に目を向けなければという男に対し、あくまでも逃避し続ける女。そのうち仲間割れをおこし、２人は言い争いを始める。リョウは黙ってその場を立ち去った。まずは右にある大きな扉に入ろう。倒れている男に話しかけても良い。

話に耳を傾ける

受付のところの右にある大きな扉の中に入ると、テクノサウンドが聞こえてくる。ここでは、座っている客と踊っている客に話を聞くことができる。基本的にはそれぞれ言葉を交わすことができるのは1度きり。現実から逃避し、何かを求めてやってきている若者たちである。ここでのポイントは一番奥に立っている女性。ただし、彼女には自分から話しかけることはできない。一番奥まで歩いて行くと「そばにいても良い？」と相手の方から聞いてくる。いわゆる逆ナンパなのだろうか、彼女は意味ありげに自分の方からリョウにいろいろ話しかけてくる。

◀フライングしている男性。リョウも吸ってみる?

▶口元が印象的な女性。自分からリョウに話しかけてくる

◀自分の思った通り正直に答えておこう

▶ヤヨイ……なんとも不思議な女性だ

▲通りすがりに再び受付とロッカーで倒れてる男の話を聞くことができる

ヤヨイの誘惑

テクノが好きなようには見えない感じだが……。彼女との会話にはときどき選択が出てくる。だが、ここではあまり神経質にならなくてもいい。自分の思った通りに答えていこう。ここへ何を求めにきているのかと彼女に問われても、リョウはただ深い意味はないと無愛想に答えるだけ。そんなリョウに向かって、彼女は気が合いそうだと答える。会話からかなりマイペースな女性という印象を受けるが……。彼女はさらにリョウを誘惑するような素振りを見せる。リョウはそんな彼女に気があるのかないのか？　彼女は自分の名前をヤヨイだと名乗り、上で待っているからと言い残してその場を去っていく。ちなみに、選んだ選択肢によっては上の会話とは少し違った展開になる。しかし、どの選択肢を選んでもヤヨイは上で待っていることになるので、とりあえず上の階に向かおう。

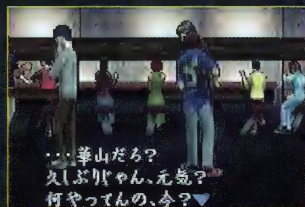
謎めいた女、ヤヨイ。彼女は何者なのか確かめる意味でも、ヤヨイを追ってみよう

クラブの2階へ

ヤヨイと会話した後は、２階へ行くことができるようになる。２階では正面にある扉を開けても、立っている男に話しかけても、たいした展開は待っていない。スミオという名前は出るがあまり深い意味はなさそうだ。ここからは左右どちらへ行っても構わない。だが、左のバーで、ある女性と会話をしないとヤヨイに会うことはできないから、順番としては左のバーへ行った方が近道となる。

扉を開けると怒られてしまうリョウ

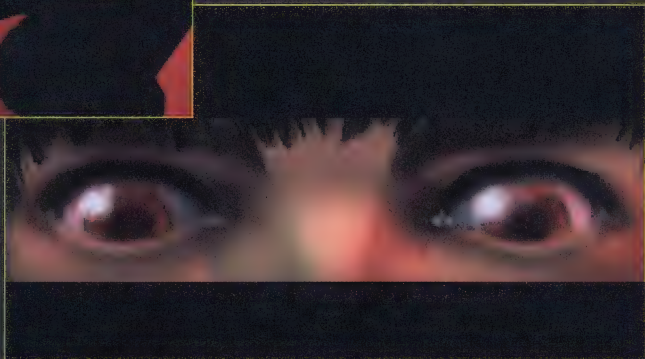
スミオの名前が出てくるが……

元同級生とバッタリ会ってしまう

キミカという女性。心当たりがない

元同級生キミカ

バーの中では雛代高校の噂などそれなりに興味深い話を聞くことが出来る。この場所でとにかく話しておかなければならないのが、一番左奥にいるキミカという女性。彼女はリョウのことを知っているらしいが、リョウはあまり覚えていない。一見、明るく振る舞っているものの、耐えられないことが多いから人混みに埋もれたいという彼女の手は震えていた。彼女と会話をすると再びヤヨイに会える。

◀ 床に落ちた紙袋。赤い液体でぐっしょりと濡れそぼり、人間の髪の毛らしきものがはみ出ている。これは……

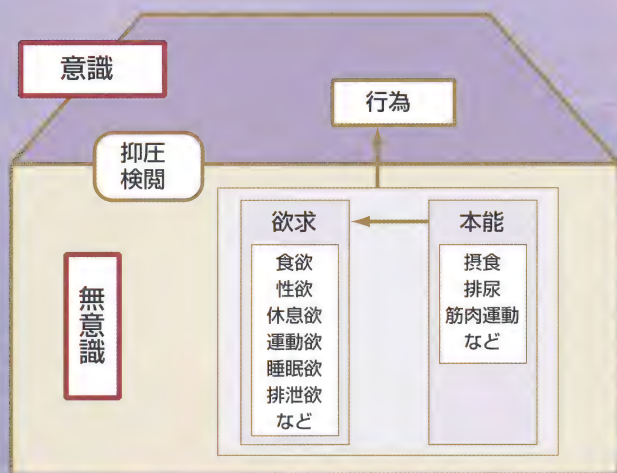
▶ 驚愕するリョウ。彼の目にはすでに何も写っていないのかもしれない。このあとリョウは気を失ってしまう

◀ キミカはスミオに騙されて子供をおろしたと告げ、自ら火を放ってスミオと心中を図る

▶ スミオに殺されるというキョウコからの電話。時間が前後しているのだろうか?

スミオとヤヨイの関係

ヤヨイに誘われるまま店の奥に入っていくリョウ。しかし、そこにはスミオがいた。ヤヨイはスミオに操られていたのである。帰ろうとするリョウにヤヨイは紙袋を差し出す。スミオは、これをキョウコとリョウが固い愛情で結ばれていることへの復讐だと言う。あまりのことに失神してしまうリョウ。そんなリョウをヤヨイは愛しそうに眺める。その頃、スミオはキミカに火をつけられ、炎に包まれていた。スミオは命が尽きる最後の時まで傲慢だった。目覚めたらしきリョウが表に出ると再びルミに出会い、彼女からスミオは「自分が死ぬ」ということを話していたと聞く。その後、リョウはキョウコからの電話を受ける。

心理学講座 2 欲　望

人を行動に駆り立てる原点が「欲」である。欲というとイメージが悪いが、それがなければ生き物は何もできないのである。お腹が空いたという刺激があれば、食べたいという欲が起こる。こうした本能に応じた行動を起こす力を欲求といい、心の中に表われるものを欲望というのである。欲望は他の記憶と繋がって成長し、身体的な欲求「食べたい」を「ラーメンが食べたい」というような欲望に変えていくのである。身体的な欲求とは違い、欲望は幻想によって解消される。ラーメンが食べたい時には、ラーメンを想像することで満足しようとするのである。しかし、人間は欲望のままに行動することを許されない。そこで起こるのが葛藤や抑圧である。欲望は「～すべきではない」といった社会的規範や「～をするような人間ではありたくない」といった自己規範と戦って（葛藤）心の奥に閉じこめられてしまう（抑圧）。抑圧された欲望はなんとか解消しようとして、夢の中に出てきたり、ひどい場合には異常な行動として表に現れるのである。

奏遇 SOWGUW

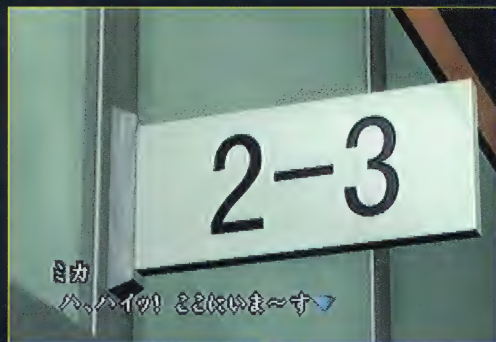
部室に閉じこめられてしまうミカ。いったい誰がこんなことを……

風変わりな一日の幕開け

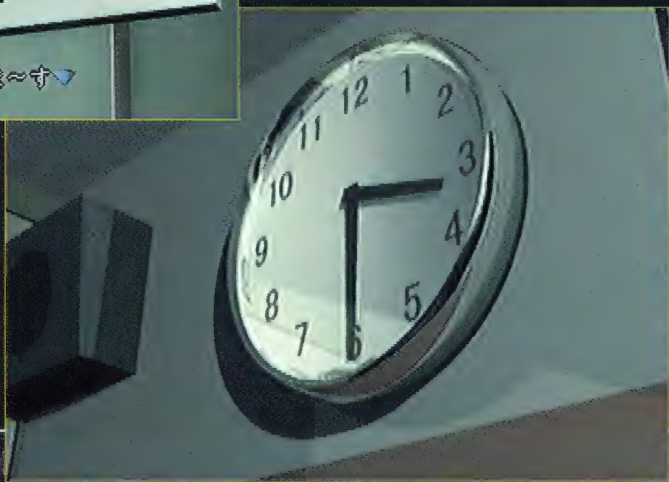
ミカの住んでいるマンションの前。母親にゴミ出しを頼まれ、文句を言いつつもゴミ袋を持って学校へ出かけるミカ。今日もまた遅刻寸前に学校へとかけ込んだ。担任に注意を受けながらも、相変わらず反省の色は見えない。授業が終わった後、ミカはカヅキにゴミ出しのことを愚痴った。しかし、カヅキからの返事は少し暗いものだった。カヅキの家庭事情は、思っているより深刻なものらしい。

◀プロローグにも出てきたミカのマンション

▶文句を言いつつも、きちんとゴミ袋を手にしている

2-3

ミカ
ハ、ハイッ！ ここにいま～す

▲遅刻ギリギリに滑り込むミカ。ちなみに、ミカの教室は校舎の南3階。毎朝、階段を駆け上がってくるのか？

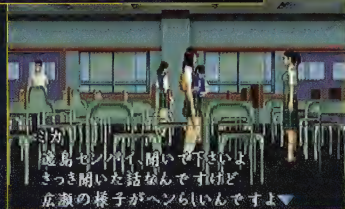
▶授業は午後3時半で終了。この後、ミカは呑気におしゃべりタイム。部活に出る気はまったくないようだ

広瀬先生の噂

授業が終わるとミカはカヅキと話し始める。ここではカヅキに対して面白い話を何度も何度もしつこく聞いてみよう。すると、科学の広瀬先生の話を聞くことができる。これを聞いていないと絶対に見ることのできないシーンがある。

▲しつこく話を聞くと新たな情報が聞ける

▲すぐに「このあとの予定は?」を選んだ場合

◀明日の約束をすっかり忘れていたミカ。さすがアリサ

▶これから特別講習を受けるという真面目なチサト

▲張り紙がしてある、入ってはいけない場所へ行こうとすると注意を受けてしまう

ユカリと屋上で再会

カヅキと話し終えて教室を出ると、アリサが明日の約束を確認しにやってくる。その後、3年の教室でチサトに話を聞くと、屋上で寝ているユカリを見つけることが出来る。この後、ユカリがいないと見れないシーンがある。ただし、これらのイベントを見ないまま帰ることも可能。

▶屋上で一人寝ているユカリを発見。どうやら特別講習をサボっているようである

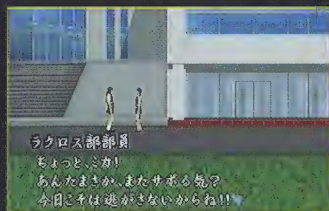
◀情報が足りないとこのようなメッセージが出る

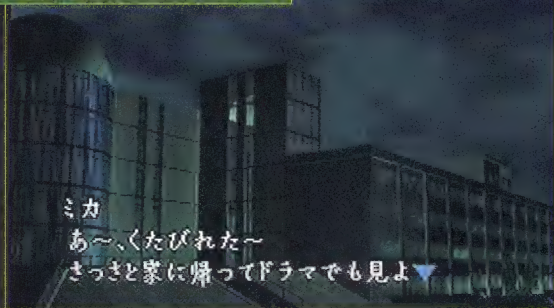
▶この後、広瀬先生は突然すごい形相で飛び出していく

広瀬先生の謎とは

化学室の前で何やらあやしげな雰囲気を感じたミカ。早速、ユカリに報告しにいくと、一緒に化学室までつき合ってくれる。これは、カヅキから広瀬先生の噂を聞いていること、チサトに話を聞いてから屋上にいるユカリに一度会っていなければ見ることができない。ユカリと一緒にドアの隙間から覗いてみると……。それほど重要なイベントではないが、気になる人は上の条件を忘れないように。

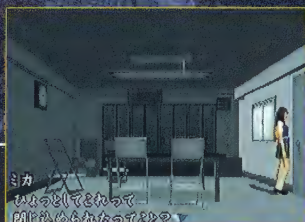
ラクロス部でのミカ

ユカリに会わなくても、広瀬先生のイベントを見なくても帰ることはできる。しかし、ゲタ箱を通って家に帰ろうとすると、どちらにしてもラクロス部の部員につかまってしまう。引きずられるようにして無理矢理部室に連れて行かれるミカ。結局、仕方なく部活に参加をすることに。辺りが闇に包まれた頃、やっと練習が終わる。早く帰ろうと支度を始めるが、今度は大会前の合宿に参加して欲しいと言われる。いつもの調子で返事をしていたミカの耳に、学校で死んだ人の話が飛び込んできた。

◀ラクロス部の部員に捕まってしまう。ミカはよくサボるらしい

▼暗い雰囲気の夜の学校。ミカは部活動を終えて帰ろうとしている

◀合宿に参加するのはイヤなようだ。ミカらしい発言だ

▶突然、誰もいなくなってしまったラクロス部の部室

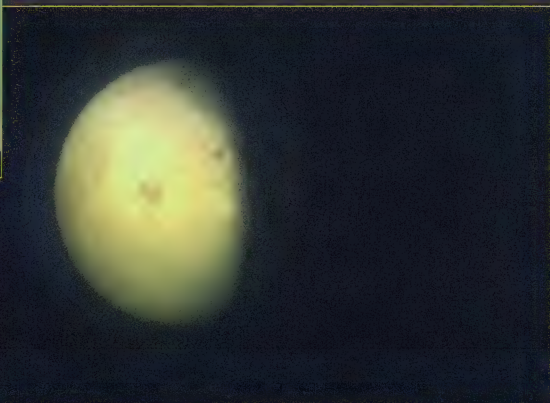
そして、異変が起こる

噂話に耳を傾けた直後、突然、部屋が真っ暗になる。気がつくと、いきなりミカは一人きりにされていた。先ほどまでいた部員はいったいどこへ行ってしまったのだろうか? まるで消えてしまったかのようである。ドアは外からカギがかかっており、窓も開かなくなっている。困惑しているミカの前に少年が現れる。

▶困っているミカの前に、突然、姿を現わした白髪の少年。ドアにはカギがかかっていたというのに……

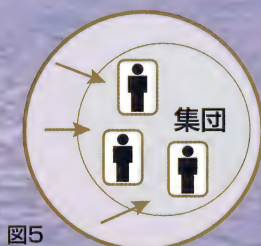
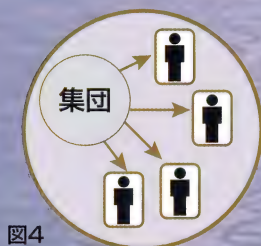
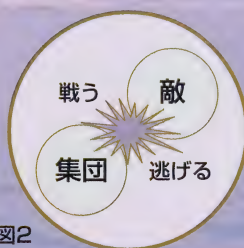
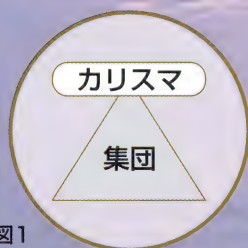
謎の少年

急に目の前に現れた白髪の少年は、前にミカがマンションのカギを落とした時、そのカギを手渡してくれたあの少年だった。彼はミカの名前や行動を知っているようで、いろいろとミカに話しかけてくる。世の中には目に見えない大きな力があって、流れにはさからえないようになっていること、人間は弱い生き物であるということ……そして、これからもミカの周りでいろんなことが起こるということ。傷つき疲れ果て苦しむだろうが、ボクがミカの魂を救ってあげる、と少年は微笑む。あまりの話に呆然としてしまうミカ。すると、いつのまにか辺りはいつもの部室へと戻っていた。今のは……一体、何だったのだろうか……？

▲思わず部員が心配してしまうほど、ミカの顔色は悪かったようだ

▶古来より不吉の印であるとも言われる月。不気味に輝いて見える

心理学講座

3 集団心性

人は集まる傾向があるが、人が集まって群衆となると感情的な強い刺激によって動かされやすく、寛容でなくなり「カリスマ」や権威を信じやすくなる。それは大衆や群衆といった大集団に限ったことではない。小さなグループでも基本的な3つの原始心性とよばれる傾向が現れるのである。ひとつはカリスマ的な人を頼ろうとする心性（図1）。また、その集団の敵となる存在を仮につくり出して、それと戦おうとしたり逃げようすることで集団のまとまる力を強くしようとする心性（図2）。これは冷戦時代のアメリカとソ連の関係を考えれば分かりやすい。最後に2人づつのグループに分かれて行こうとする心性（図3）がある。これらの原始心性は集団が集まると、必ずその中に発生する。人はなぜ集まるのだろうか？　人間はタナトスとエロスという衝動を持っている。タナトスとは死の欲動と呼ばれる力で、バラバラになろうとする力（図4）である。逆にエロスはまとまろうとする力（図5）で、エロスの方が優位であるためと考えられている。

心理学講座

4 人格障害

人格とは「その人らしさを特徴づけている基本的な行動傾向」や「環境に対する独自の適応機能の特徴」と表される。つまり、さまざまな状況に対して起こす、その人らしい対応や行動である。人格障害とは他人と安定した関係を持てず、感情的な問題を起こしやすい人で、簡単にいってしまえば「変わった人・困った人」だといえるだろう。しかし「著しい苦痛または、社会的、職業的、または他の機能の障害を引き起こしている」という場合でなければ病気として成立しないが、人格障害とされる人は確実に増えてきているといわれている。最近注目されているサイコパスも人格障害のひとつである。この障害のある人は良心とか他人に対する思いやりといった部分が無く、罪悪感や後悔の念も無い。そのため、異常犯罪に走りやすいといわれている。その特徴として、平気でウソをつくことが挙げられる。問題は専門家の間でもサイコパスが病気であるかどうか意見が分かれるうえ、それを治療するための有効な方法が、まだ存在しないということだろう。

人格障害

A:精神分裂病と関係の深い型	B:社会的不適応を起こしやすい型	C:自らが悩む型
1：妄想性人格障害 度を超して疑い深く、人を恨みやすい。	4：反社会性人格障害 盗みや家出、暴力など非行や犯罪に関わりやすい。	8：回避性人格障害 極度に控えめなために、損をして悩む。
2：分裂病質人格障害 対人関係に無関心。 非社交的、 感情表現が下手。	5：境界性人格障害 衝動をコントロールすることが苦手。対人関係が激しく不安定。 6：演技性人格障害 過剰に自己を演出する。	9：依存性人格障害 なんでも人に指図されないとできない。
3：分裂病型人格障害 被害妄想などが前面に出る。	7：自己愛性人格障害 極度にナルシスティックで、自分は貴重な存在であると信じている。	10：強迫性人格障害 極端に完全主義者的で細部にこだわる。

変嫉 HENSHITSU

変質者で溢れ返った街。ミカはここを抜けることができるだろうか？

いつか見た夢

前作「トワイライトシンドローム」にあった隠しシナリオ「Prank」の再現シーンから話が始まる。様子のおかしいチサト、そして意味の分からないことを言って立ち去るリョウ。しかし、どうやらそれはミカの夢だったらしい。電話の呼び出し音で目が覚めたミカ。出てみると、アリサからだった。待ち合わせの時刻を過ぎているのに気づかず眠っていたらしい。とりあえずアリサをなだめて、あわててマンションを飛び出して行った。

◀Prankをプレイした人は見覚えがあるはず

▶しかし、どうやらそれは夢だったらしい

◀執拗にミカに絡んでくる浮浪者。この男を突破するには、なるべく相手にしないこと。もし相手にすると、言いがかりをつけたあげく、逆上して襲いかかってくるのである

見ただけで嫌悪感を感じる太った男。コイツの職業はなんとゲームの開発者。どうしても逃れられないという人は「話す」→「ゲームのことを聞く」→「逃げる」の順に選ぼう

彼女から逃れる最短の方法は「見た」→「知らない」→「思う」と答えること。しかし、この他にも正解となる選択肢はいくつか存在するので、興味がある人はチャレンジしてみよう

行く手は変質者だらけ

マンションを出て右に進むと、アラマタがいる。左に進んで行くと、やがて呻くような声と自分のものではない足音が聞こえてくる。しかし、その足音は犬を散歩させている青年のものだった。ミカに対してうなり声をあげる犬。その後もミカは次々と変な人たちに会う。選択を誤ると再び元の場所に戻ってしまう。なかなか進むことができない人は、写真の横にあるコメントを参考にして欲しい。

歪みはじめた街

やっとのことで３人の変質者たちをまいたミカ。たが、ホッとしたのもつかの間、また後ろから誰かの足音がついてくるのだ。誤った行動を取ると、ミカは転んで、またつけられているところに戻されてしまう。何度も戻されてしまう人はまず無視してから走ってみよう。逃れることができるはずだ。その後、リョウの視点に切り替わり、彼がミカを追ってこの場所にきたことがわかる。

◀ミカを探して街をさまようリョウ

▶この死体は先ほどの青年が連れていた犬？

アリサ発見

霜北にたどり着いたミカ。ひたすら画面を左の方へ移動すると、アリサと待ち合わせをした「MISERABLE LIE」へたどり着くことができる。待ちくたびれたアリサに文句を言われるミカ。どうやらルミの方は一人で買い物へ出かけてしまったらしい。アリサは自分の買い物につき合わせようとしてくるが、ここでの選択肢はどれを選んでも結局は同じ。アリサとカフェ「RANK」で待ち合わせる。

◀20分で着くといったのに、また遅くなった

▶ちゃんと待っていてくれたアリサ

ルミと遭遇。しかし……

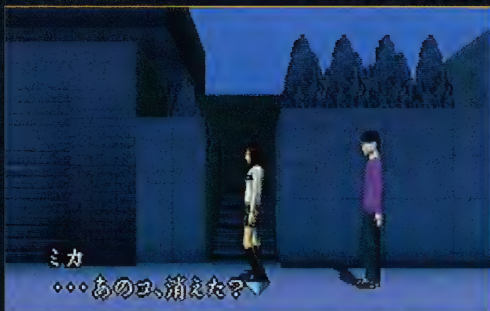
ルミとは、左の方にある「阿修羅楽器」の前で会うことが出来る。今度は２人でアリサを探すことになるが、「阿修羅楽器」の右隣りにあるカフェ「RANK」にはアリサどころか店員の姿さえ見あたらない。アリサを探そうとするミカに、何故かルミは突っかかってくる。結局、口論の後、ルミは一人で帰ってしまう。

◀ルミは楽器店の中にいた。一人でコンビレーションを探していたらしい

◀ヤヨイは自分をチサトの妹だというが、チサトの口からは妹がいるなんて一度も聞いたことが無かった

▼ヤヨイが消えた後、後ろには見覚えのある男が。ミカが逃げると後を追いかけて来る

ヤヨイとの出会い

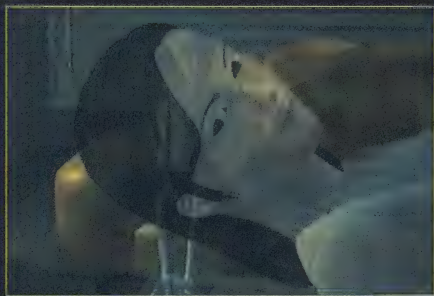
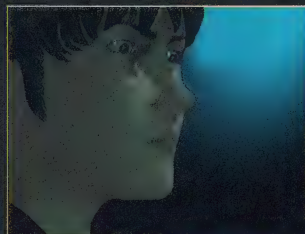
アリサを探すため再び左へ歩いて行くと、そこでヤヨイという女性に出会う。クラブでリョウを誘惑したあの女性である。彼女はチサトの妹だと名乗る。しかし、姉を悪く言うヤヨイに、イラだちを隠しきれないミカ。アリサが買い物しすぎて動けないといわれ、ミカは渋々ヤヨイについて行く。どれを選んでも同じ。

◀リョウの前にまたヤヨイが現れた

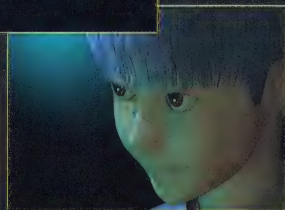
▶この男は、ずっとミカの周りをうろついていたのか

ヤヨイの陰謀

ミカはヤヨイがどうして助けてくれなかったのかと詰め寄った。しかし、ヤヨイは冷たくミカを突き放す。ヤヨイの後を追おうとするミカの前に、再びあの紫の服を着た男が出現する。ミカは再び危機に陥った。そのころ、リョウの前にもヤヨイが現れていた。ミカに会い、会いたい人の所へ連れていったと言う。ヤヨイがミカのところに案内するようなことをほのめかし、リョウを誘うのだった。

白髪の少年はすべての元凶なのか

地下街を移動するリョウ。そして、クラブの奥へ入ると、そこには薄笑いを浮かべるヤヨイと白髪の少年の姿があった。怒り心頭に達したリョウ。しかし、白髪の少年に軽くいなされてしまう。そのころミカは、あやうく男に襲われそうになっていたところを、駆けつけたユカリ達に助けられていた。男はパトカーに乗せられ、連れていかれた。

▲クラブの奥に進むと、白髪の少年の膝に横たわるヤヨイを見つける。この二人の関係は?

◀怒りをあらわにするリョウ。絶対に許さない!

▶リョウをあしらう少年。余裕すら感じられる

◀すんでのところでミカを助けたユカリとチサト。3人の絆は強い

▶パトカーの中で自らの舌を噛みきった男。いったいこの男は……?

心理学講座　5 ノイローゼ

ノイローゼという言葉は、わりと一般的に聞かれるが、広く使われ過ぎていて、本当はどんなものなのか分からなくなっている。正確には「心因性の精神障害で、精神的な葛藤、外界の環境などの圧力による危機的状況にうまく対処できず、心理的に不安定になり、心身ともに障害を生じるもの」と定義されている。簡単にいえば、心がプレッシャーに耐えられなくなって起こる、異常な行動や身体の異常である。人間の心は、苦痛で耐えられないような事柄を意識の下に閉じこめて、抑圧してしまおうとする。この反応は精神の平衡を保つための防衛反応であり、本人はなにを抑圧したかを覚えていないのだが、抑圧された内容は身体や行動の異常に姿を変えて現れるのである。意識下に抑圧された内容を本人が知らないために、解決できないことが主な原因となるので、精神分析によってその内容が本人に分かれば治ることが多い。ノイローゼにかかりやすい人の特徴は、几帳面、頑固、神経質な人や自己中心的、自己顕示欲の強い人であるといわれている。

■ノイローゼ

不安神経症		もっとも多く見られる神経症で、漠然とした不安感から動悸、息切れ、めまい、ふるえ、手足のしびれなどの症状が起こる。突然、息が苦しくなって「このまま死んでしまうのではないか」という強い不安感に襲われる、不安発作を起こすこともある。
強迫神経症		無意味と分かっていながら何度も考えたり気にしたりしてしまう症状。出かけるときにカギをかけたことを覚えていても、何度も戻って確認してしまうといった症状をしめす。
心気症		体の調子が気になって、病気ではないのに病気であると信じ込んでしまう症状。異常がないと告げられても不安や恐怖は消えず、身体の変調を訴える。ガンノイローゼなどが、これにあてはまる。
恐怖症		ある特定のなにかに対する恐怖が長期間続き、日常生活に支障をきたす症状。「対人恐怖症」「尖端恐怖症」などがこれにあたる。
ヒステリー	転換型ヒステリー	心の中の挫折によって、知覚障害、運動障害、内臓障害などが引き起こされる症状。要求を受け入れられないと、一時的に手がマヒしたり目が見えなくなったりする。
	解離型ヒステリー	心の機能の一部が連結を絶たれて、失神や幼児退行、健忘などをおこす。
その他	離人神経症	以前の自分とは違う感じがして、行動や自分の身体、他人の言うことがぴんとこなくなる症状。

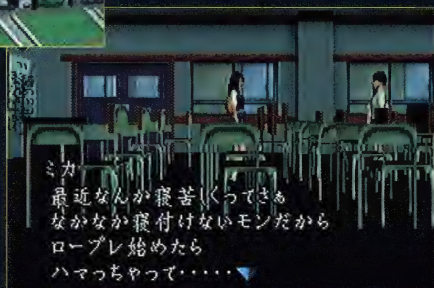
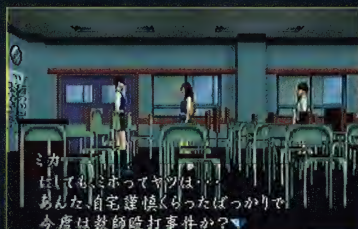
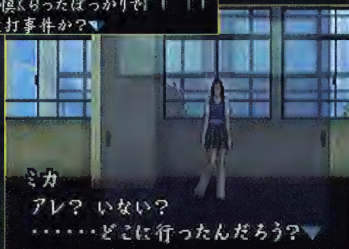
片倫 HENLIN

構内の配置がメチャクチャに。その上、たくさんの死体を見るミカ

◀ミカ達が通っている学校。おだやかな日差しが差し込み、一見環境が良さそうな所だ

▼変嫉でも格闘ゲームに詳しかったミカ。結構ゲームが好きらしい

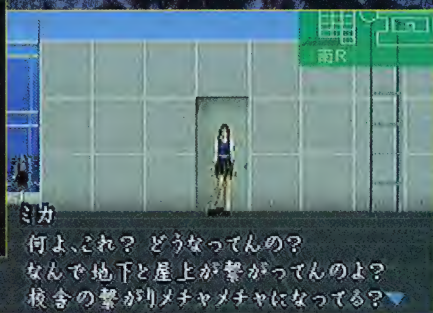
ミホ、大いに切れる

いつものように、学校でカヅキと雑談しているミカ。そこへ、機嫌の悪そうなミホが入ってきた。教師を殴り一週間の謹慎を食らったという。怒りのおさまらない彼女は、ミカに不満をぶちまける。

◀教師を殴打したなんてミホはかなり血の気が多い?

▶廊下に出たときすでに少年の姿は見えなかった

白髪の少年をおいかけて

ミホの話を聞いているときミカは、廊下に白髪の少年が通り過ぎるのを見かける。呼び止めるカヅキを無視して、あわてて後を追うミカ。しかし、少年の姿はない。その上、校舎のつながりがメチャクチャになっている。これもあの少年の仕業だろうか。つまり、ここではMAPを参考にしてもムダということだ。ミカは少年の姿を求めて、学校をさまよい歩くことになる。何度も屋上に出たりしながら頑張ってミカの教室までたどり着こう。南3階は南1階の正面の階段からあがることができる。

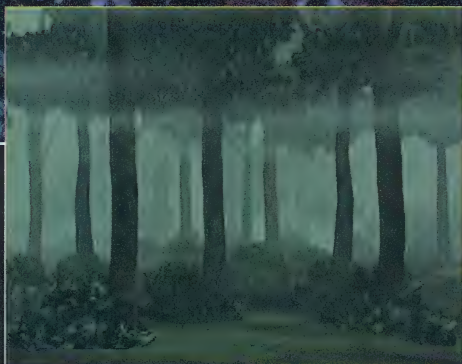
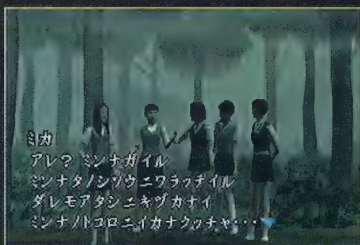
◀上にのぼったはずなのに……何故か地下に出てしまった。どういうことなんだろう?

▶今度は屋上に出た。配置がメチャクチャになっているみたいだが……

南R
ミカ
どこにいるの？
隠れていないで出てきなさいよ！

◀姿は見えないのに少年の声だけが屋上に響き渡る。バカにされていることにイラつくミカ

▶同じ所ばかりを回っている。屋上に出るのはこれでもう何回目だろうか

◀どのくらい歩いただろうか、やっとのことで白髪の少年を見つけた。少年はミカの教室へと入っていく。あわてて後を追うミカ

▶ミカの教室へと続くはずのドアを開けて入ると、何故かそこは深い森だった

▶周囲を見回しても完全に森。しかし、どこかで見た覚えがあるような気もする……？

▶みんないる。あそこまでいかなきゃ

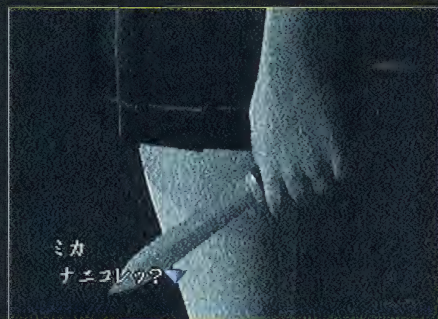
▶お願い、私を置いていかないで

行き着いた先は深い森

教室のドアを開けた先は、深い森の中だった。前にも来たことがあるような気がする。……それとも、これはデジャヴなのか。すると、突然、森の中にアリサ・カヅキ・ミホ・ユカリ・チサトが現れた。みんな、楽しそうに笑っている。しかし、誰もミカには気づかない。みんなの所に行こうとするミカだったが、どうしても体が動かないのだ。みんなにはミカの声すら届いていないようだ。次第に、みんなは少しずつ彼女から離れていく。置いていかないでと懇願するミカだが……。

▲ミカの大切な人たちが折り重なり、倒れている。
誰がこんなことをしたというの?

積み重なった死体

森を抜けると、周りにはたくさんの人が倒れていた。そして、ミカの手には凶器らしいナイフが握られている。「ミカがみんなを殺した」と告げる白髪の少年。彼は、自分のやったことはきちんと認めるべきだ、ミカだってこれで良かったと思っているんだろう……と、どんどんミカを追いつめていく。全く覚えのないミカは恐怖におののき絶叫する。

▲ミカの手には、いつのまにか鈍い光を放つナイフがおさまっていた

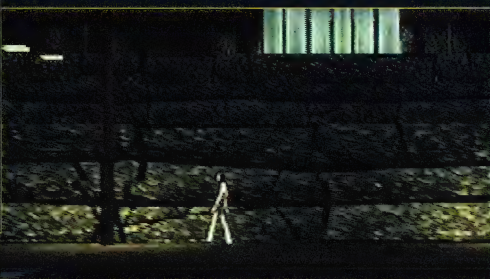
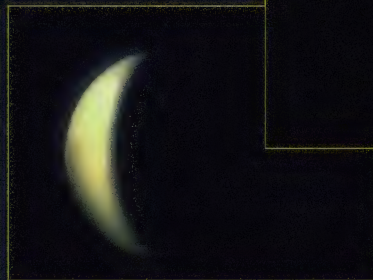
▶山となっている死体。少年は、全てミカがやったことだとミカを責める

月の夜の帰り道

ふと我に返ると、ミカは見慣れた教室で立ちすくんでいた。今までの出来事は白昼夢だったというのだろうか？　教室には誰もいなかった。そんなミカの様子とはお構いなしに鳴るチャイムの音。いつまでもここにはいたくない。混乱しながらもミカは家路を急いだ。

▲気がつくと、少年の姿はどこにもなく、ミカはただ一人教室にたたずんでいた

◀いつもの帰り道。街路樹と街灯はあるものの、今日はいつもにも増して、暗くさみしい

▶足早に帰ろうとするミカ。救急車のサイレンがミカを追い越して響き渡る

▶うつろなミカの瞳。辺りをとりまくサイレンの音も今のミカには届いていないだろう

◀今宵の月は三日月。その妖しい光はミカの頭上にも降りそそいでいた

心理学講座

6 認　識

自分が見ているものが必ずしも正しいとは限らない。そもそも見るということは目の中の網膜が光の刺激を受けて、その刺激を脳が処理することで見えるのである。網膜は平面的だが、ちゃんと立体的にものが見えるのには脳の機能が大きく関わっている。網膜で受け取った情報をいったん色、形、動きなどに分解して処理し、立体に作りなおしているのである。「黒い車が目の前を横切った」ときに、「黒」「車という形」「移動（横切る）」に分解し、さらに記憶（知識）を調べて「黒い色」「車」「横切るという運動」と理解して、最終的に「黒い車が目の前を横切った」と分かるのである。つまり、かなり大雑把だが、分かるということは記憶との比較であるといえる。では初めて見た物や、よく見えなかったはどう処理されるのだろうか？　記憶の中に無い物を、何だか分からないとは脳は答えない。これが一番近いというものを選んで「～みたいな物」として処理される。「幽霊を見た!」といった話にはこの働きが関わっている場合が多い。

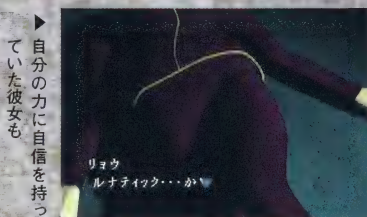
COLUMN

エンディングまでクリアした人に向けて

次々に殺されていってしまうキャラクターたち

何者かに殺されるという恐怖

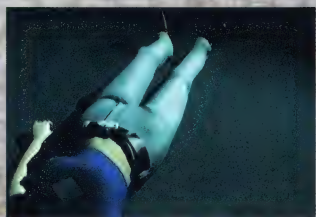
前作の「トワイライトシンドローム」では幽霊や霊界などに対する恐怖はあるが、キャラクターたちに直接危害を加えてくるということはほとんどなかった。それが、本作では幽霊こそ出ないが、「死」そのものがストーリーに大きく関わってくる。前半部分では不自然な部分はありながらも、交通事故や自殺めいたものが多い。だが、エンディングに近づくにつれ、何人ものキャラクターたちが“殺されて”いく……。

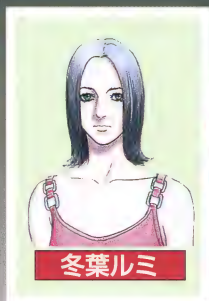
◀初登場の翌日に殺されたミユキ

▶自分の力に自信を持っていた彼女も

▶これもあの少年の仕業である

◀この後、チサトは復活するが……

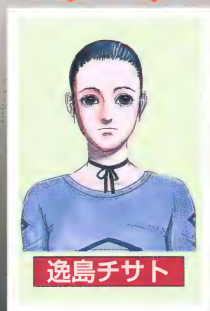
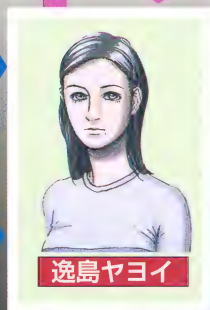
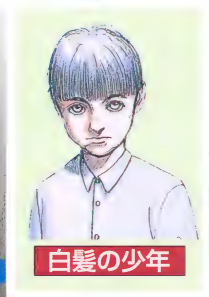
絶対にクリアしてから読むこと

特に激しく殺害が繰り広げられていくのが「慟悪」から「エピローグ」にかけて。ミカを捜すために協力してくれた女子高生たちが次々と惨殺されていく。そして最後までその惨劇は繰り返され、ついには前作から登場していたユカリやチサトまでもがアッサリと殺されていってしまう。あまつさえミカまでもが……。ラストが悲劇というのはともかくとして、彼女たちが殺されることに対しては賛否両論ではあるまいか。

第3章
各人物の背景

キャラクター相関図

雛城高校・ミカ同級生

雛城高校・教師

兄妹
愛情（肉体関係）
恋人
姉弟（愛情）
華山キョウコ
華山リョウ
嫉妬（執着）
愛情
冬葉スミオ
所有物（肉体関係）
愛情（肉体関係）
執着（復讐）
奴隷
白髪の少年
逸島ヤヨイ
高橋キミカ

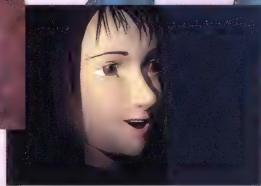
メインキャラクター ミカの場合

岸井ミカ

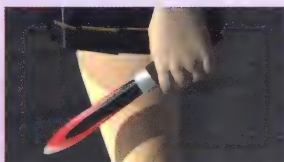
ミカは今回も主人公的な存在。プロローグなどでは彼女を操って話を展開させることになる。ご承知のように「トワイライトシンドローム」からのキャラクターで、好奇心旺盛なために事件に巻き込まれてしまうことが多い。だが、本作では彼女ばかりが原因ではなさそうだ。

外向的直感型（やや顕示質タイプ）

流行に疎いということもないが、飽きっぽくひとつのことをコツコツと行えないミカ。論理的に見えても大抵は直感による決断力の結果である。時折、不道徳に見えるものの、意外と人を信じる気持ちは持っている。今どきの女子高生にありがちなタイプではある。

◀ OPデモのミカが張りつけられているシーン

▶ プロローグの1シーン。好きな人に会った時の表情だ

◀ ミカも普段からこんな感じだとカワイイのに

▼やがて、どんどん狂気の世界に引きずり込まれていく

ミカの意外な一面

プロローグで彼氏（スミオ）と会う約束をするミカ。彼と出会った時、ミカは意外なまでにカワイイ顔をする。普段は割とキツイことを言うミカだが、やはり好きな人の前では女らしくなるようだ。それにしても……スミオがミカに目をつけた原因は、やはりキョウコなのだろうか？

RYOU
リョウの場合

華山リョウ

2話目などでは主人公的な扱いのリョウ。彼は姉のキョウコに異常なまでに愛されて育ったため、少し屈折している。ルミとつき合ってはいるが、恋愛感情は持っていないようだ。後半ではキョウコに瓜二つのミカを必死に守ろうとする。果たして彼は救われるのだろうか……？

▶ ヤヨイを背に決戦の場へ向かおうとするリョウ

▶ これはリョウの幻想世界なのだろうか……？

内向的感情型
（分裂質タイプ）

頭の回転は悪くないのだが、相手にはわかってもらえないからと多くを語らない。　感情表現がヘタであまり人と関わるのを好まない。根は淋しがり屋なのか、ルミとつき合ったり、クラブへ行ってみたりしている。頑固な一面もある。

◀ キョウコと話す時のリョウはどこか頼りない

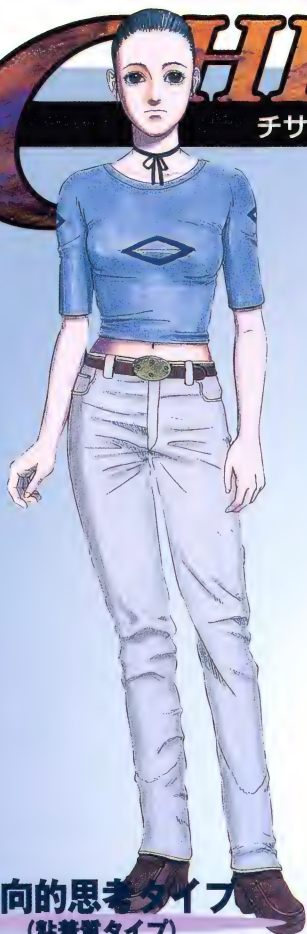
▶ 最後のシーン。リョウの目に映っているものは何か

最終的に愛していたのは

姉のキョウコとの禁じられた恋愛関係を持っていたリョウ。キョウコを守ることができなかったとわかると、今度は同じ顔を持つミカを守ろうとする。彼が本当に愛していたのがキョウコだけだったことはラストムービーでもわかる。

CHISATO
チサトの場合

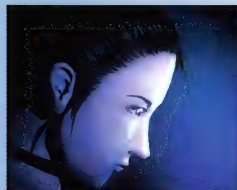
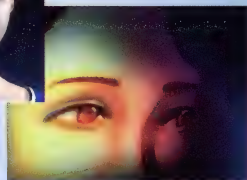
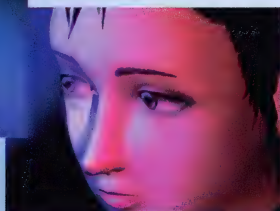
逸島チサト

「トワイライトシンドローム」では霊感が強い少女として活躍したチサト。今回はより強力な力、超能力のようなものを発揮する。さらに、本作から登場する妹のヤヨイ。彼女もチサト並みの力を持っているようだ。自分のその力で後輩のミカやユカリを懸命に守ろうとする。

外向的思考タイプ
(粘着質タイプ)

意外に義理堅く、正義感の強いチサト。頑固で融通のきかない面はあるものの、基本的には人のために動くタイプといえるだろう。ミカやユカリなどに頼りにされており、本人もその気持ちに応えようと頑張ろうとする。

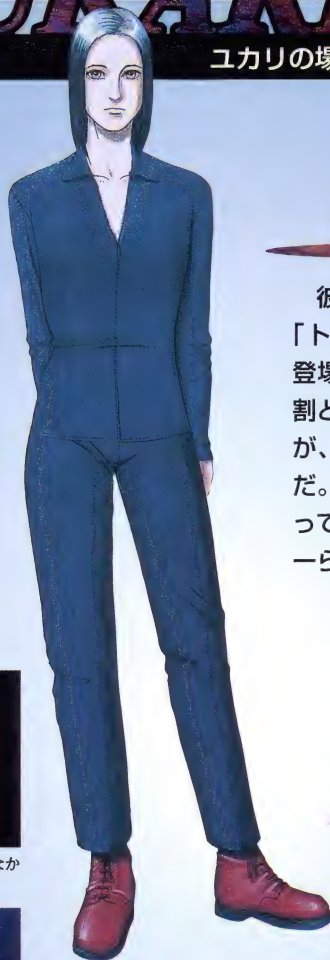
◀ ヤヨイと姉妹だったとは……。意外な展開である

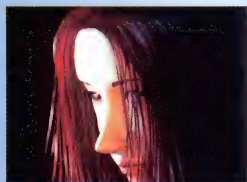
▶ 真剣な表情のチサト。ミカを救おうと必死である

◀ 普段からはあの不思議な力を使うようには感じられない

▶ 先輩だけあって、ミカよりはずいぶんと大人っぽい

ミカのお姉さま

ミカのことを一番心配していたのは彼女ではないだろうか？　ミカが変質者に追われた時、そしてミカがいなくなった時、すぐに行動したのはいつもチサトやユカリ達だった。最後には、危険をかえりみず夜の校舎へと出向き、まさにミカのために命をかけて戦うのである。

YUKARI

ユカリの場合

長谷川ユカリ

彼女もチサトやミカと同様、前作「トワイライトシンドローム」から登場しているキャラクターである。割と人との接触を好まないユカリだが、チサトとミカだけは別のようだ。過去に（前作）教師とつき合っていたこともあるが、現在はフリーらしい。

▲ユカリも、こうして見るとなかなか色っぽい

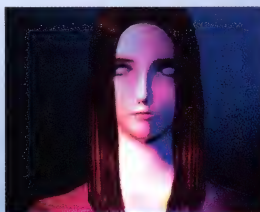
◀前作の時に、一番心の中にかげりがあったユカリ

内向的思考型
（分裂質タイプ）

チサトとミカだけは別格のようだが、基本的には他人より自分を取るユカリ。敏感と鈍感が同居しており、非社交的であまり感情表現が得意ではない。チサトやミカに誘われても断ることが多いのはそのせい。実際は、彼女たちが無理矢理ユカリを引っ張り出しているのである。

ミカを助けるために

ミカたちが興味を示した事件については何の興味も示さないユカリだが、ミカたち本人がピンチに陥った時は違う。むしろ積極的に自分から学校へ行こうと言う。つまり、彼女は大切な人を助けるためであれば動くが、知らない人に対しては割とどうでもいいというタイプらしい。

◀あまりの出来事に精神が破壊されてしまったユカリ

▶普段気丈なだけに、こういう時は意外ともろい

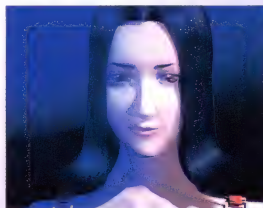
RUMI
ルミの場合

冬葉ルミ

一時期はリョウの恋人でもあったルミ。スミオの妹でもある。ミカとは同級生らしく、アリサとの買い物に誘われたりしている。それほど重要なキャラクターではないが、中心人物ともいえる人とはほとんど直接つながっている。同級生に比べてやや大人っぽい。

内向的思考型
(やや分裂質タイプ)

一般的に理想や主義など独創的な考えを持つことが多いといわれるこのタイプ。一見、冷淡とか強情といった印象を与えてしまうが、根は優しいことが多い。実は理論のための理論に走ってしまうだけで、幼稚でしつこくみえてもそれほどの悪意はない。感情表現がヘタ。

◀ どうしても心の底から笑うことができないルミ

▶ ルミといえば、もっともこの画面を多く見ているはず

◀ おだやかな表情のルミ。本当はあたたかい心の持ち主

▶ ラストにもルミは登場する。彼女は最後まで無事だった

リョウを想っていたルミ

自分を抱きながら他の女性を思っていたリョウに対して怒りをあらわにするルミ。クラブで事件が起きた後、店の前で待っていたり、最後の決戦では学校まで来てみたりと、リョウのことを心配しているように見える。ルミは思ったよりリョウを愛していたのではないだろうか。

SUMIO
スミオの場合

冬葉スミオ

ルミの兄。一見、カッコイイ気さくな青年を演じている彼だが、根はかなり自己中心的で傲慢なタイプ。何かとリョウに突っかかり見下した態度を取る。妹のルミにも兄は異常だといわれてしまうが、命を落とす時さえ態度を崩さなかったのは立派である。

内向的感情型
（偏執質タイプ）

自信に溢れ返り、常に強引で自己中心的な考えをし、なおかつそれを相手に押しつけるタイプ。有能ではあるが、攻撃的な上に根拠もなく自分が正しいと信じてしまうことが多い。しかも、相手の気持ちを汲むのが下手なため、敬遠されがちで孤独になりやすい。

▲女性にモテるスミオは、かなりの自信家である

◀すでに最初から精神異常な言動が見え隠れするスミオ

◀相手が自分の思い通りにならないと人のせいにする

▶スミオは焼き殺される時さえ高らかに笑っていた

かなりのプレイボーイ

リョウの最愛の姉であるキョウコとつき合い、彼女とそっくりの顔を持つミカともつき合っているスミオ。その上、ミカはスミオの子供をおろしたという。女性にモテるため余計に自信を持ってしまったのだろうか。しかし、本当の恋愛に対しては幼稚な考え方しかできない。

KYOKO

キョウコの場合

華山キョウコ

リョウの姉でミカとそっくりの顔を持つ女性。大きな出番は最初だけだが、この物語ではとても重要なキャラクターだといえる。彼女はスミオの恋人でありながら、弟であるリョウのことを愛する。そのことを引き金にして、いろいろな事件が起こってしまうのだ。

▲ミカに似ているというが……どうだろうか?

▲幻想世界らしき場所でニッコリと微笑むキョウコ

内向的感覚型
(粘着質タイプ)

基本的には穏和なおとなしい性格である。優れた観察力を持っている割に、やや総合的な判断能力は欠けている。頑固で融通がきかない面もあるが、辛抱強いといった部分も持ち合わせている。そのため、ストレスを中にため込んでしまうので限界に達した時は凄い。

◀ ラストシーンの一歩手前でのキョウコ。ちょっと怖い

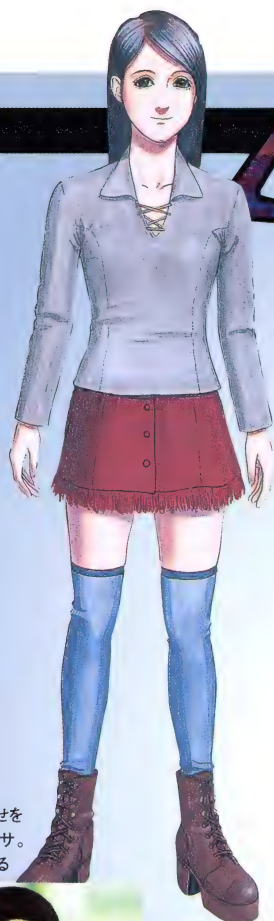
▶ これはやはりキョウコだったのだろうか……?

人の意見をきかない

彼女はリョウの意見にあまり耳を貸さない。というよりも、リョウに守られるのではなく自分が守るといった考えに対して、頑なである。出番が少ないので細かいところまではわからないが、普段はおとなしいが、怒ると手がつけられないといったタイプなのかもしれない。

ARISA
アリサの場合

鹿原アリサ

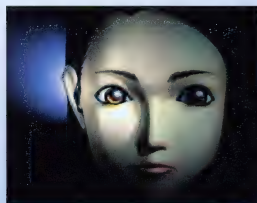
ミカと友達のアリサ。よく買い物に行ったりするらしい。その彼女は何となくミカと似た印象を持つ。軽いところが似ているのかもしれない。ミカと大きく異なるのはチサトたちが持っているような不思議な力を彼女も持っていること。その力に助けられることになる。

▼駅で待ち合わせをした時のアリサ。軽い性格である

▶アリサが真剣な表情をする時はめずらしい

外向的感覚型
（顕示質タイプ）

ミカと同様に華やかな性格だが、理解よりも事実を重視する。一見、自由奔放だが、実は現実に捕らわれやすく大変堅実である。ただし、人に好かれたり尊敬されたりすることに価値を見出す性格という点はミカと同じかもしれない。

説教をするアリサ

電車の中でミカに説教をするシーンがある。ミカがミーハーであまり堅実でないことに対して心配しているらしい。軽い印象のアリサからそんな言葉が聞けるとは思ってもみない。心の中では何を思っているかわからないものである。

▶アリサもチサト並みの力を持っているらしい

◀アリサは結構、自分の力に自信を持っているらしい

ヤヨイの場合

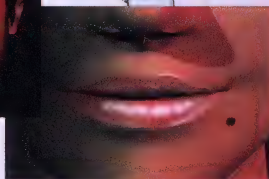
逸島ヤヨイ

チサトの妹。最初の登場はスミオに操られてリョウを誘惑する時である。リョウのことを気に入ったのか、最後まで彼の周囲をウロつく。それと共にチサトにもちょっかいを出すヤヨイ。彼女が何を考えているのか、とてもわかりにくい。

◀普段、冷めている分、怒らせると怖い女性

内向的直感型
（分裂質タイプ）

自分の思っていることを相手に伝えるのがヘタなため、どこかずれた印象を与えてしまう。もともと象徴的・主観的な考えを持つので理解されにくいが、神秘的な力を持つことが多い。一般的な倫理や道徳とは無縁である。

▶口元のホクロがとても印象的。どことなく色気がある

◀女王様ばりのヤヨイ。弱いリョウをいとおしく思う

▶あなたのためにやったと、首の入った紙袋を差し出す

リョウに好意を抱く

首の入った紙袋を見て失神したリョウ。それを見てカワイイと好意を抱くヤヨイ。変わっているといえばそれまでだが、彼女は弱いものに対して好感を持つらしい。逆にチサトに対して挑戦的なのは彼女が強いからではないだろうか。

校長先生の場合

校長先生

ミカたちの通う雛城高校の校長先生である。全校生徒の名前とクラスを覚えているという凄い先生。最初の方に出てきたきり後半まであまり出番はないが、とても重要なキャラクターの1人である。中盤以降では、この雛城高校の中で次々と起こる殺人に関わっている。

▲普段はおだやかな表情。とても優しい先生に感じる

▶これが本当にあの校長なのだろうか……？彼に何が起ったのか

内向的感覚型
（分裂質タイプ）

他のキャラクターと比べて出番が少ないだけに判断に迷うが、受動的で穏和、おとなしい性格といった印象を受ける。総合的判断には欠けるが、優れた観察力を持っている。理路整然とした意見を述べる人が多く、凝り性の人が多い。

◀エレベーターであがってくる校長。緊張するシーンだ

▶校長室の柱が崩れていくシーン。それに巻き込まれてしまう校長

死体を集めて

優れた観察力に創造性が加わると有能な芸術家になる場合が多いようだが、彼は少し違った方向に進んでしまったらしい。広瀬を陥れたり、モニターで生徒たちを観察したり……そしてあの標本。元々の動機はいったい何だったのだろう？

MISTERY BOY

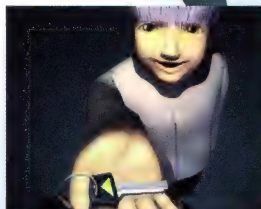
白髪の少年の場合

白髪の少年

設定資料によると、彼の名前はミトラという。彼の言葉によれば、ミカの魂を救いにやってきたらしい。どう考えてみても人間とは異なった生物で、不思議な力をいろいろと操ることができると思われる。最終的に彼が何を求め、何をしたがっていたのかはよくわからない。また、どこから来たのかも不明なままである。

内向的感情型
(偏執質タイプ)

彼が人間という前提で分類するとこうなる。一般的に好き嫌いが激しく、自己中心的。考えるスケールが大きく、理想主義者で聖人になる人もいるという。その反面、暴走すると手段を選ばなくなり、大悪人になる。感情表現がヘタな上に、他人の露骨な感情にさらされるも苦手。

◀ 最初はカギを拾ってくれた普通の少年だった

▶ 少年は人間の心はみんな醜いとミカを説得する

◀ 子供というよりも、子供の姿をした悪魔という感じ

▶ 最後の方に登場する少年の姿。果たして彼は何者か?

何が言いたかったのだろう?

彼の目的はミカだったのだろうか？　最終的に彼の目的は達していたのだろうか？　彼のことに関しては謎だらけで終わりを迎える。彼の態度を見ていると人間とは醜くて弱いものだということをわからせたいようだ。それと共に、相手が苦悩する様を見て喜んでいる節がある。

その他の人物たち

勧誘男とアラマタ

一番最初に遭遇する変質者。それが道端でいきなり宗教の勧誘をする男である。会話の選択によっては勧誘をしないままに終わるが、かなり不気味な存在だ。また、アラマタも言ってしまえば一種の変質者だろう。だが、力になってくれる味方ではある。

◀ 展開によって少し異なるが、やはり彼も変態の一種?

▶ アラマタはミカに自分も変態の一種だと語る

◀ 余計なことをいうと絡んでくるタイプの浮浪者

▶ 自己中心型で人に嫌悪感を与える典型的なタイプ

浮浪者とオタク野郎

ミカがアリサと待ち合わせをした時に出会う変質者である。この2人は割とどこにでもいそうなタイプ。特にゲームの開発をやっているという太った男の方は、自分が嫌われていることを自覚しないために余計に嫌われていくタイプである。

ノイローゼ女と自虐的な男

子供を失ったのかノイローゼになっている女性が出てくる。彼女はなかなかこちらの言葉を信用してくれない。また、最初は犬と散歩していた青年も、途中からミカを執拗に追い回し、挙げ句の果てに舌を噛みきってしまう異常者となる。

◀ 自分の子供はどこかと問うノイローゼ気味の女性

▶ 自分の舌を噛みきる男。最初はよくいる青年に見えた

◀ スミオと心中しようと自分に火をつけて死ぬキミカ

▶ 最後は自分が幕を引くとばかりに自殺を図るリル

キミカとリル

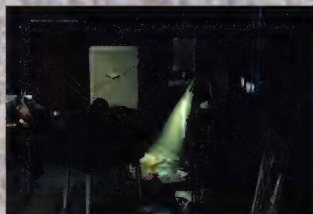
リョウの元同級生だったというキミカはスミオの子供をおろし、その復讐のために自ら火をつけてスミオと心中をする。一方、リルという少女は周囲が脅えるほど怖い存在ではない。誰かに自分をとめてもらいたいと考えていたようだ。

COLUMN

エンディングまでクリアした人に向けて

果たして謎は全て明かされたのだろうか？

一番最後のムービーの謎

「エピローグ」で死んだように思われたミカ。しかし、スタッフロールのところで、リョウに倒れ込んだ女性はミカのように見える。その後、ムービーが流れるのだが……。このシーン、意味がわからないと思った人は多いだろう。普通に考えられるのは、命が尽きたミカの首をリョウが抱えているというもの。事実、資料によると発見されたミカはバラバラの状態。だが、ハッキリとわかるシーンはカットされてしまったようだ。

◀慣れた様子で訪問してくるルミ

▶リョウが手にしている紙袋は!?

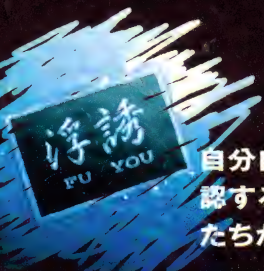
▶本当にキョウコは死んでいるのか？

◀果たしてリョウの精神は……？

他の説としては

他の説としては、キョウコの事故の辺りですでにリョウの精神状態は崩壊しており、すべてはリョウの妄想だったというもの。また、どこかでキョウコとミカが入れ代わっているという説。しかし、資料にそういった事実はないので、それはあくまでもこちらの仮説にしかすぎない。また、最大の謎ともいえる少年の正体は何だったのだろうか？　そして、刀があったとはいえ何故あれほど簡単に倒せてしまったのだろう？

第4章
ムーンライト
シンドローム
(後編)

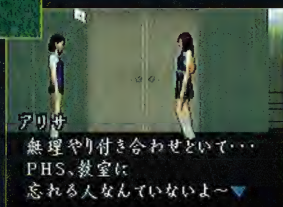
浮誘 FU YOU

自分自身の存在を、確認するために少年少女たちが選んだ手段とは

自殺が多発する団地

ミカの住むマンションの近くに、飛び降り自殺が多発している団地がある。その話を聞いた当日も、１人の少年が屋上から飛び降りてしまった。一体、何故そのようなことが起こるのだろうか……？

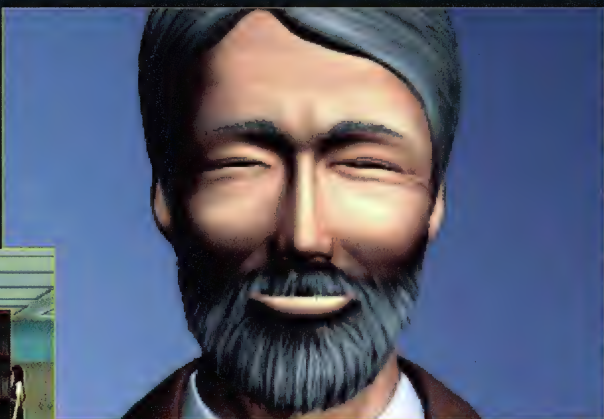
▲両手を広げ、決心して飛び降りていく少年。彼の胸の内は……

◀今回はこの３人での行動になるのだろうか

▶大事なPHSをなくして、アリサに責められるミカ

やはり気になるミカ

自殺の噂を聞いたミカは、早速ユカリたちを現場に誘う。しかし、不機嫌なユカリは取り合ってくれなかった。結局、チサトとアリサとミカで行くことになるのだが、現場へ行く前にミカがPHSを忘れてきたことに気づき、学校に戻る。

▶PHSを探している途中、図書室の前で校長先生に会う。優しそうな紳士だ。彼は学校の全生徒の名前と顔を知っているらしい

▼はじめに図書室の机を調べ、アリサに本棚を調べさせると、この位置でPHSを発見できる。しかし、何故こんな所に……？

待ち合わせの時間に誰も来ない

誰も来ないので連絡をするミカ。チサトとアリサはポケベルを持っていないので、ミカはそれぞれの家に電話を入れてみた。しかし、すでに家は出ている様子。仕方なくひとりで行動することになる。

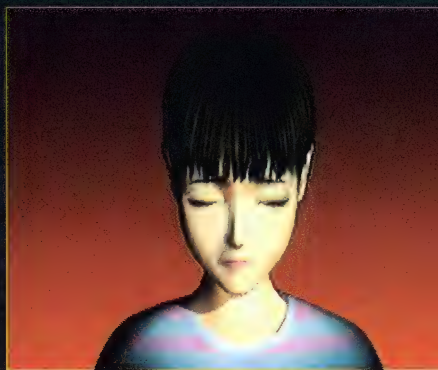
▲ここでリダイヤルすると、聞き覚えのある声が……

▶団地の下では、昨日の自殺のあとを見てしまうことに……。なんだか生々しい

◀団地に入ろうとすると子供たちに囲まれる。連続自殺の秘密を知っていそうだが

遅れてきたアリサ

ミカが行動を開始した頃、アリサが待ち合わせ場所にやってくる。そこにはただ、泣きじゃくる少女が立っているだけだった。ナナと名乗るその少女は「今度は自分がダイブする番……」と涙ながらに答えるのである。リルという少女に連れて行かれると、屋上から飛び降りなければならないらしい。そこでアリサはリルが迎えに来る前に、ナナの家まで彼女を助けに行くと約束をする。

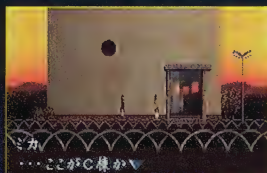
▶ダイブは例の連続自殺と関係があるらしい。リルとは何者なのか

迎えに来たのは…

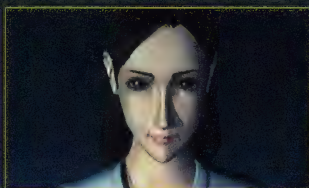
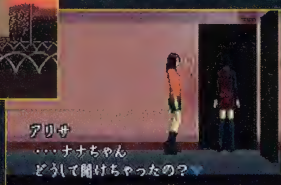
「ナナちゃん……、アリサだよ～。助けにきたから開けて」という声に喜びを隠せないナナ。アリサが助けに来てくれたものと思ったナナは嬉しさのあまり、ついドアを開けてしまう。しかし、そこにいたのはアリサではなかった。ナナの悲鳴が辺り一面に響いた。

▲約束したにもかかわらず、間に合わなかったアリサ。ではこれは誰だったのか……？

やっと合流した2人

ここではじめてアリサにナナのことを聞くミカ。この会話の後、「ナナを助ける」か「リルを探す」の選択がある。前者を選ぶと、2人でナナの部屋へ行くが後者を選ぶとアリサがひとりで行ってしまう。その後、またミカが「アリサを追う」か「リルを探す」を選択することができるが、もしアリサを追っても、しばらくするとはぐれることになる。

◀やっとのことで、ミカとアリサは合流できた

▶ナナを迎えにいくが、すでに遅かったようだ

◀姉妹というだけあって顔立ちは少し似ている……？

▶彼女の話は、チサトには通じているようだ

▼この2人には、このような力があるらしい。いったいどういうことなのか

姉妹の再会

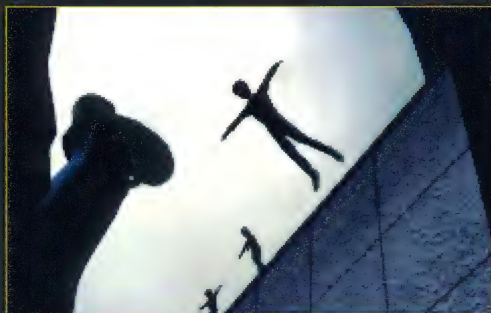
時間に遅れて待ち合わせ場所にやってきたチサト。気が進まなそうだったユカリも何故か一緒である。その2人の前に現われたのが、チサトの妹でもある逸島ヤヨイ。しかし、ユカリにはチサトに妹がいるという話は初耳だった。しかも、ここで2人の姉妹の会話に出てくる言葉は「こちら側」「彼」「巻き込む」など、まったくわからないことばかり。ヤヨイのひどい口の利き方に腹を立てたユカリが横から口を挟むと、ヤヨイはいきなりオーラを発する。それに対して発せられたチサトのオーラとヤヨイのオーラの間に挟まれたユカリは飛ばされてしまう。

留守番をしている子供たち

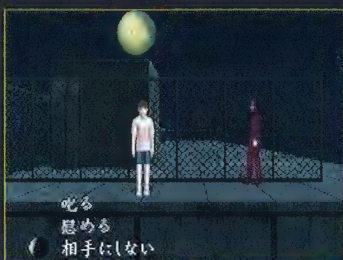
アリサとはぐれてしまったミカは、リルを探し始めることにした。団地を外から見て、電気の点いている部屋を確認し、一件一件回っていく方法だ。しかし1009号室まで行ったところで、そこの子供に「ここの子供は皆うそつきで、全部反対のことしか言わない」と教えられる。今まで子供たちが言っていたことを反対に置き換えていってみよう。

念のため一階にいるアラマタには話しかけておこう

反対に考えればすぐに1009号室だとわかるはず

アリサには、集団ダイブのシルエットが見えていた。たくさんの悲鳴が聞こえる

ナナとミカが、今危ない状態にあることを、アリサは感じていた

選択を誤ると大変なことに

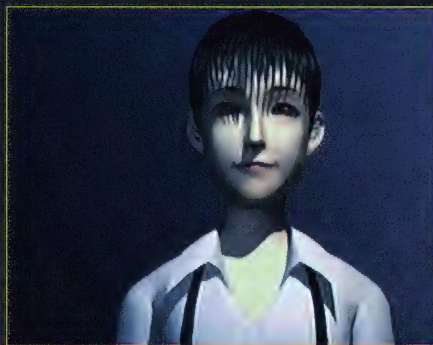
屋上ではナナが飛び降りようとしていた。そこで、ユカリが説得をする。注意したいのは「慰める」という選択肢。途中で何度か選ぶことができるのだが、これを選択するとナナは迷うことなくすぐに飛び降りてしまう。とにかくそれを避けるようにすること。最終的に、ナナのことを叱れば飛び降りることをやめて、一度ユカリの元まで戻ってきてくれる(そこで「相手にしない」を選択したとしても、その後もう一度「叱る」「慰める」が出てくる)。だが説得のかいなく結局は「お姉ちゃんありがとう」と言い残して飛び降りてしまうのである。

これを選ぶと、ナナの迷いがわかる

慰めてしまうとこの顔を見ることはできない

▲ここでは、連続ダイブのことをリル自身から聞くことが出来る

子供たちのシンボル、リル

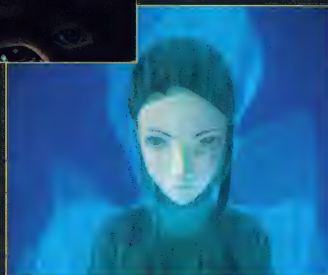
ようやくリルの居場所を突き止めることが出来たミカは、彼女から何か情報を得ようとする。ここでの会話の選択はストーリーの流れが少々変わる。彼女のことを信じてあげると、連続ダイブを止める方法があることを教えてもらえる。出されたお茶は、飲んでも飲まなくても、気絶させられることには変わりはない。

▶ナナがダイブした後にユカリは階段を降りていった。ナナはタケルに助けられ、なんとか命は取りとめたようである

◀ミカが深入りしてきたことが、結局は連続ダイブを止めるきっかけになったのだ。リルはミカに感謝していた

殺気がユカリを襲う

ナナの無事を確認したユカリが、団地から出ると、呪文のような子供たちの声と共に殺気が襲ってくる。ここでの選択肢は最初はどれを選んでもいい。その後、もう一度同じ４つの選択肢が出てくるからだ。しかし、２回目は「逃げる」以外のものを選ぶと、同じことの繰り返しになり、先に進むことができなくなる。なんとかその場から逃がれると、子供たちの声はどんどん大きくなっていく。絶対絶命のユカリ。しかし、そこにアリサが駆けつけてきてくれる。アリサも人間離れしたパワーを持っているようだ。

◀膨大な殺気と、泣き声がユカリに覆いかぶさってくる！

▶タイミングよく現われたアリサが、ユカリを救ってくれる

チサト
・・・・・・
悲しいよ、死ぬなんて・・・

▲飛び降りようとしているリル。死ぬことの無意味さを訴えたが……

連続ダイブを終わらせるために

連続ダイブを終わらせる方法とは、リル自身がダイブすることだった。その方法は間違っていると、チサトは必死に説得をする。しかし、リルは迷うことなく飛び降りてしまうのだった……

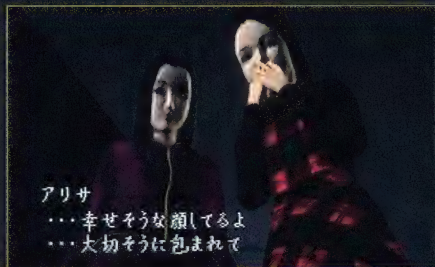
▶チサトとダブって見える少女。彼女が死んだ後の世界を語る

▼ちょうど2人が通りがかった時に起こった飛び降り自殺。偶然にしては出来すぎている？

アリサ
・・・幸せそうな顔してるよ
・・・大切そうに包まれて

これも運命なのだろうか

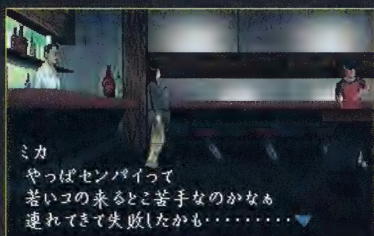
飛び降りたリルの下敷きになったのが、彼女の父親だった。その結果、彼女は一命をとりとめた。しっかりと受け止められ、幸せな顔をしていたリル……。しかしヤヨイに言わせれば、それもすべて何者かによって仕組まれていたことのようだ。一体どういうことなのだろう……？

◀悲しい出来事を、まるでゲームのように語るヤヨイに腹を立てたチサトは、守護神の力を借りてヤヨイをねじ伏せようとした

▶姉の言動にいらつくヤヨイ。彼女もまた、守護神の力を借りてチサトに応戦する。以前よりも力をつけているらしい

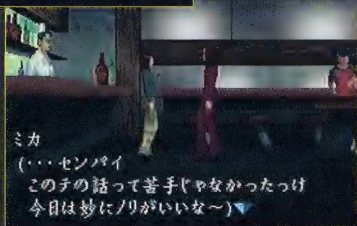
夢から覚めたはずが、まだ夢の中……果たしてどれが現実なのか

ユカリをクラブに誘ってみる

ユカリは、ミカと違ってどちらかというと流行り物にはあまり興味がないタイプだ。しかし、ミカはどうしても行きたいイベントがあったので、試しにユカリをクラブに誘ってみた。はじめは全く乗り気じゃなかったユカリだったが、ミカの「ねー、行きましょうよー」という強力な押しに負け、一緒に行ってくれる。

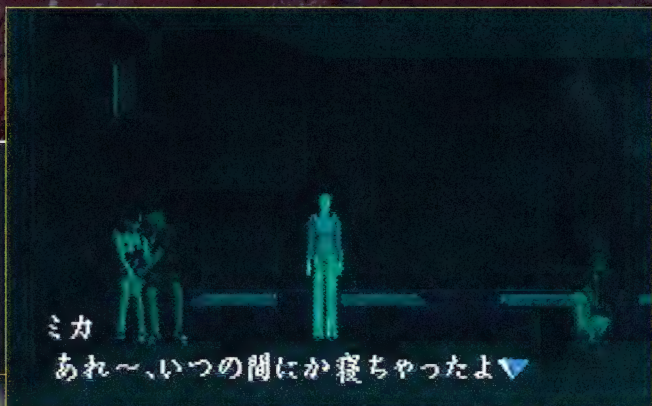
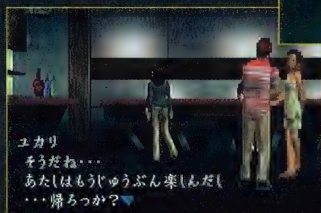
▲こんなに、一生懸命誘うくらいだから、よほど行きたいのだろう

めずらしいユカリ

はじめはあまり乗り気じゃなかったユカリだったが、次第にノリが良くなってきた。普段だったら、くだらないといって取り合わない話も、今日は楽しそうに聞いている。ユカリなりにクラブの雰囲気を楽しんでいる様子だ。

▲最初は、つまらなそうでミカも心配したが……

▶その日のユカリはミカも驚くほど、ノリが良かった

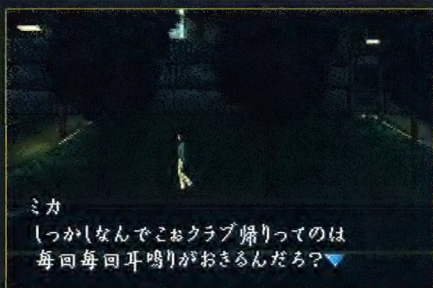
▶ミカに誘われ、ダンスフロアではダンスも披露してみせたユカリだった。初めての割には決まっている

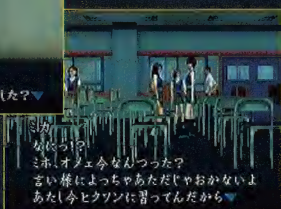
睡魔が……

踊った後、ユカリはドリンクを取りに上のフロアに行ってしまう。ミカも少し疲れたのでソファーに座るが、突然、睡魔に襲われてそのまま眠ってしまった。

◀ユカリもここまでで十分、楽しんだようだったので、帰ることにする

▲目が覚めると、だいぶ時間が過ぎている。ユカリはどうしているだろう

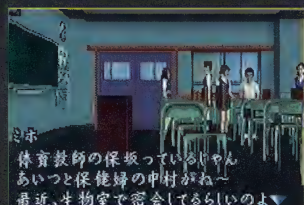
鳴りやまない耳鳴り

あんな事件があった後だったので、いい気晴らしになったとユカリも喜んでくれ、帰り際、また今度誘って欲しいと言ってきた。ミカとしても楽しいイベントだったので、大変満足な気持ちで帰路に着く。しかし、クラブ帰りのときはいつもひどい耳鳴りに悩まされてしまう。その日は、家に帰ってもそれは解消されず、なかなか寝つくことができなかった。

▲いつもこんなにひどい耳鳴りがしただろうか……眠ってしまった影響かな？

◀ユカリがそんなことを言うわけがない。でも……

▶ミホにもひどいことを言われたような気がした

突然、幻聴が……

朝、目が覚めても、耳鳴りがなおることはなかった。そのことをユカリに報告したところ「あんな音楽聞いてるからだよ、バーカ」と言われたような気がした。びっくりして問いただすと、そんなことは言ってないと言う。では、いったい誰が言ったというのだろうか……？

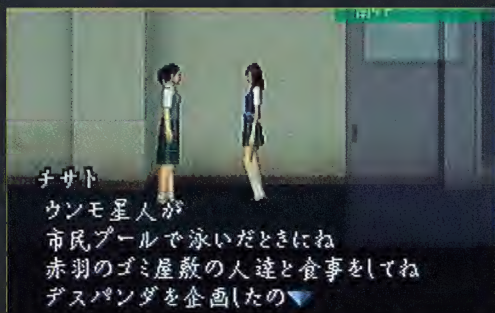
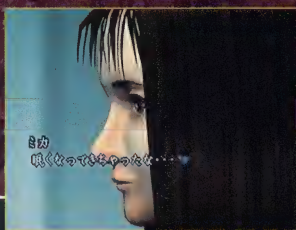
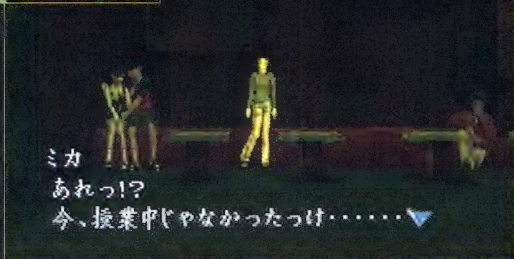
▶授業中にも、聞きとれないほどの小さな声が聞こえてくる。これも耳鳴りなのか

◀相変わらず、このテの噂話には事欠かない

▶その声は、自分に語りかけているようなのだ

生物室の噂とは

授業の後、教室でミホと話をすると、体育教師の保坂と保健婦の中村が、生物室で密会しているという噂を仕入れることができる。とりあえず廊下に出てみるが、男の声が何度も聞こえてくるのだった。それは、腹立たしいものから恐ろしいものまでいろいろ聞こえてくるのだが、すべて違う人間の声である。これらは、時間が経過すると発生するイベントなので、授業開始のチャイムがなるまでは校舎を歩いて時間をつぶすといいだろう。

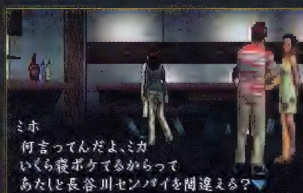
おかしなことを言うチサト

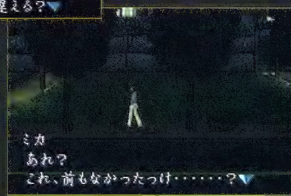
またしても耳鳴りに悩まされた授業を終えたら、教室にミホが立っているので話しかけること。そうするとチサトの噂を聞くことができる。それは「霜北の路上でチサトが詩集を売っていた」というもの。ミカは心配になり、チサトの教室まで確認に行くことにする。教室の前にいたチサトに接触すると、わけのわからないことをまくしたて、さっさと姿を消してしまう。どうしたのだろうか？

▲言っていることが、まったくわからない。いったいどうしてしまったのか

◀眠いのは疲れたから？
授業がつまらないから？

▶気がつくと、ユカリと来ていたクラブに

どっちが夢なのか

次は眠れそうな授業だったので、ミカはついウトウトしてしまう。しかし、ふと目が覚めると、そこはなんと「LOST HIGHWAY」だった。一体、何がなんだかわからないミカ。しかし、ユカリと来ていたのだと納得して、彼女の元へ急ぐ。

お相手はミホ

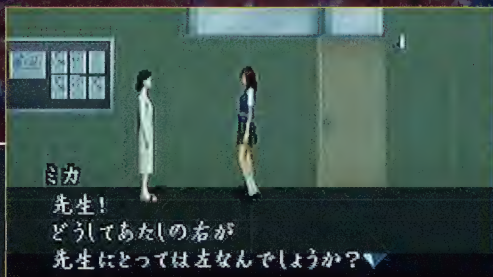
上のフロアにいるはずのユカリのもとへ急いだが、そこで待っていたのは意外なことにミホだった。それも何故か制服を着ている。ミカは一瞬、戸惑うものの、平然としているミホを前に疑うことはしなかった。ユカリはこういうところがあまり好きではないので、ミホと来ることになったらしい。その帰り道、ひどい耳鳴りに悩まされるミカ。こんなこと、前にもあったような気がするのだが……。

◀すっかりユカリを待たせていると思いこんでいた

▶このシチュエーション、身に覚えがあるのだが

▲これらの症状の原因が、クラブ帰りの耳鳴りだけとは思えないのだが……

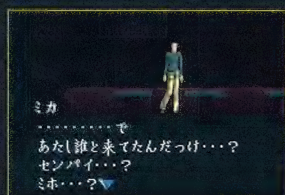
頭も痛くなってきた

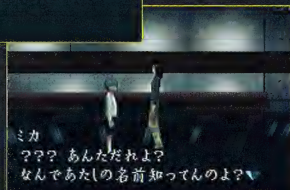
目覚めると、また授業中である。ミカはリアルな夢を見て、だんだんと頭が混乱してきた。耳鳴りも止まらず、さらには頭痛もしてきたので、授業が終わったら保健室に行くことにした。ミカは１０秒前からカウントダウンをし、授業が終わると同時に保健室に向かった。しかし、耳鳴りはさらにひどくなるばかり。あまりの痛みにミカはもがき苦しむ。

ミカもおかしな事を口走る

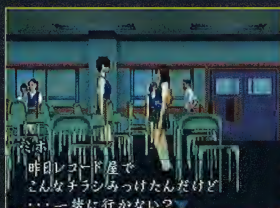
保健室に向かう途中にも、耳鳴りや幻聴のような症状が立て続けに出ていたミカ。やっとの思いで、保健の先生を見つけたが、自分の言いたいことが何も言えず、おかしなことばかりが口をついて出てくる。話せば話すほど、ますますおかしくなるばかりだった。すると耳鳴りが高まり、クラクションの音に変わった！

▲この言葉のこわれ方は、さっきのチサトと似ているような気もする

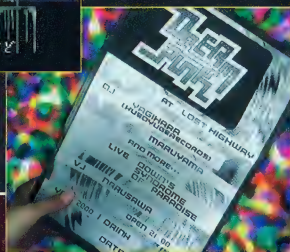
何が夢で現実なのか

クラクションの後に、車にぶつけられたような音を聞く。その瞬間、目が覚めると、ミカはクラブにいた。しかし、今回はまったく人気がなく、自分が一体誰と来ているのかもわからなくなっていた。

◀またここで寝ていた。一体何回ここで目覚めただろう

▶上のフロアに行くと白髪の少年が立っている

▶面白いものを見させてもらったと言う少年。しかし、ミカは彼のことを忘れており、からかわれたと思っていた。怒った彼女はこらしめようとするが逆にやられてしまう

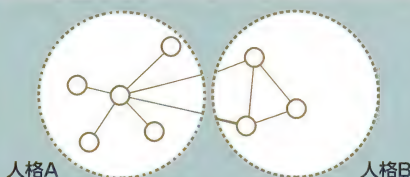
見せられたチラシ

いつものように遅刻しそうになって、あわてて登校したミカに、ミホはチラシを見せた。それは、長い長い夢のなかで何度も目覚めた、あのクラブのものだった。久しぶりの営業ということでイベントをやるらしい。ということは、やはりあれは本当に夢だったのだろうか？

◀夢の中だと、ミホともそのクラブで会っているが

▶あの、ユカリと行ったイベントはいったい……？

心理学講座

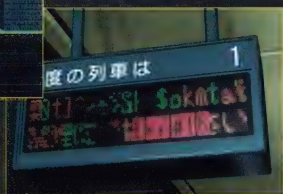
7 幻聴

電車の中で少し離れた場所にいる人の会話を聞いて、つい笑ってしまった事はないだろうか？　普通、人は自分の聞きたくない音はシャットアウトして、必要な音だけを選んで聞くことができる。試しに同じ電車の中の音をテープに録音してみると、その違いがハッキリと分かる。テープを再生すると、電車の走行音やザワザワしたノイズが多くて、とても会話の内容は聞き取れない。精神病の中にはこの状態と同じように、健康な人間であれば無意識に行っている「必要のない音を無視する」という機能が働かなくなるものがあるのだ。よけいな音がたくさん聞こえていれば、それが人の声のように聞こえてしまってもおかしくない。幻聴の内容は、分裂病の場合だと指示や命令といった内容のものが多く、聴こえ方も耳から聴こえるというより、頭の中で響いたり、身体全体で感じるものが多いといわれている。その原因としては、外界の音や声と意識下の思考との区別がつかなくなってしまい、それが幻聴として認識されるのではないかと考えられている。

精神分裂症とは

開扉 KAIBYO

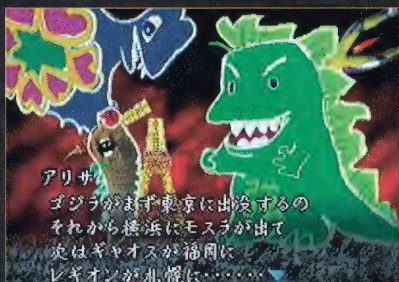
ここでもミカは白髪の少年と接触。とうとう連れ去られてしまう

◀しばらくアリサは来ないので、ホームを歩いてみよう

▶電車が発車した後、電光掲示板がこんなふうに変わる

アリサと待ち合わせをしたが

ミカは地下鉄のホームでアリサと待ち合わせをしていた。でもなかなかアリサはあらわれない。アナウンスは、事故で電車が遅れていること、この電車もしばらく停車をすることを告げていた。しかし、アリサが来てその電車に乗車すると、何故かすぐに発車してしまう。

▶この日はあまりアリサとの会話がなかった。しかも、アリサにミカの日頃の行いについて説教をされてしまう始末だ

▶この話に入るまでに「聞きたい」「聞きたくない」の選択があるが、結局必ず聞かされる

アリサの見た夢

アリサが何度も見ている夢があるらしい。それは、ゴジラやガメラが出てくる現実とは程遠いもの。それが、先日やっと完結したと言って話してくれるが、かなり長い話になる。聞くには覚悟が必要だ。

▲それではいったい、2人は何のためにここに来ているのだろうか

覚えのない電話

待ち合わせはしたものの、ミカは、これからどうするのかまだ決めていなかった。アリサはミカが誘ったのだから、ミカが決めるのが当然と言わんばかり。しかし、ミカはアリサから電話で誘われたような気がするのだ。しかし、2人ともその誘われた電話を覚えていなかった。

突然アリサが眠ってしまうと……

話はまだ終わっていないのに、アリサは突然、睡魔に襲われて眠ってしまう。気がつくと、ミカたちの前にあの少年が座っていた。

ミカ
・・・まだ寝てる

▲まだ電話の話が解決していないのに、熟睡してしまったアリサ。しばらく起きそうにない

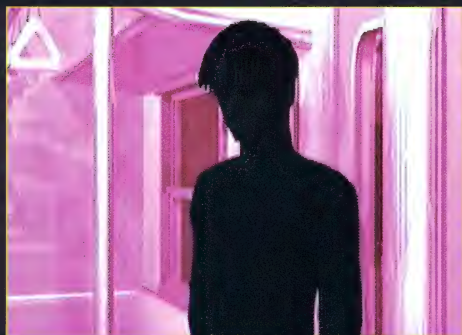
◀彼と会うのは何度目になるだろうか？ しかし、ミカは覚えていないようである

心の中の声

白髪の少年が、面白いものを見せてあげると言う。はじめミカは拒否するが、結局は見てみることにする。それは、近くに立っているサラリーマンの心の中の声が聞こえるというものだった。少し興味をもったミカは、少年にうながされ電車の奥へ奥へと進み、いろいろな人たちの心の声を聞いていく。

◀営業のサラリーマン。仕事も家庭もあまりうまくいっていないようだ……

▶このおばあさんは、先立たれたおじいさんのことばかり考えている。終わってから、もう一度声を聞いてもおじいさんのことばかり

◀口ではお互いを誉めあっているが、実際の心の中はそうでもない。本音は相当ひどいもので、ミカですら驚くほどだ

▶オバタリアンたち。一見楽しそうに見えるが、心の中はお互いの悪口や、亭主の浮気のことなど……。ミカには刺激が強かったか

◀彼はミカにじっと見られているので、惚れられたと勘違いしている。しかし、自分からナンパするのはプライドが許さないらしい

▶おとなしそうな青年だが、心の中はもえたぎっており「天下を取る！」と考えている。人は見かけによらないものである

◀一見、キレイなOL。頭も良さそうだし、こういう人ってどういうこと考えてるのだろう。しかし、彼女の考えていることは……

◀たいしたこと考えてないように見えたが、2人ともおおよそ外見からは想像もつかないようなことを、それぞれ考えている

▶小学生の集団。彼らの心の中をのぞくと、聞き取れないほどたくさんの情報が乱れ飛んでくる。ミカたちとあまり変わらないか……

彼の心の中は……

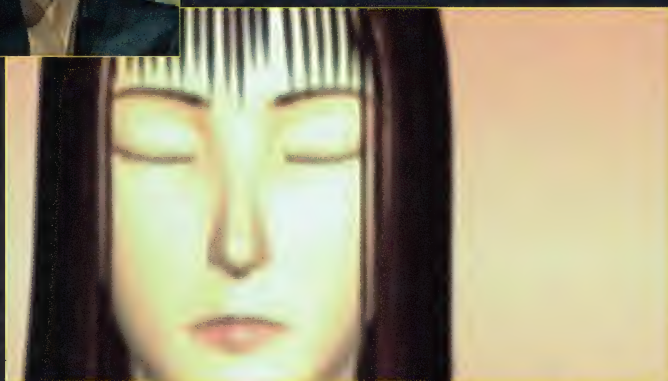
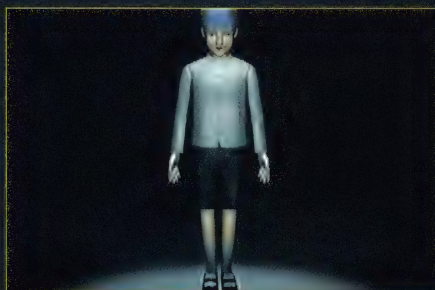
突き当たりには男が座っている。ミカは彼がリョウだと気づかない。彼の心も覗こうとするが、何も聞こえてはこなかった。この後、あの少年がミカの隣りに座り、人間なんてこんなものだと言い放つ。

▲もう一度声を聞こうとしても何も聞こえてはこない。この沈黙には、なにか意味があるのだろうか……?

▶ミカは話を聞いたのが、たまたまこんな人たちだったと思いたかったが、次第に少年に説得されていってしまう

そしてミカの心の中は

目覚めたリョウの向かいには、ミカと白髪の少年が座っていた。リョウは、少年が自分に関わってくることを煩わしく思っていた。そんなリョウに少年はミカの内面世界を見せるのだった。

▲少年はミカやリョウに関わってくるのは必然な事だったと言うが……

▶これがミカの内面世界。スミオのことしか考えていないと少年は言う

◀少年はミカに狂気の世界を見せ、「考える時間が必要」と言って連れ去ってしまう

▶これを境にして、ミカはアリサたちの前から忽然と姿を消してしまう

ミカのキーホルダー

アリサが目を覚ますと、隣にいたはずのミカがいない。電車の中を探すと、最前部にミカがいつも持ち歩いているキーホルダーが落ちていた。それに、確か電車は発車していたはずなのに、1時間40分遅れてたった今、発車するという。あれは全て夢だったのだろうか？

◀ミカはいないし、電車はおかしい。気味が悪い……

▶キーホルダーだけを残し、ミカはどこへ行ったのか

心理学講座

8 シャドウ（心の中にある闇）

「嫌いな人」「生理的に受けつけない人」「こんな人になりたくない」といった人は誰にでも思いつくはずである。たとえば権威主義的な人とか、優柔不断な人とか、嫌いなパターンは人それぞれだと思うが、冷静に自分を見つめなおしてみると、嫌いなものほど自分の中に強く存在している場合が多い。そういった自分の人格の否定的で暗い部分、自分が見たくないと感じて無意識のうちに抑圧している部分がシャドウなのである。自分のシャドウに当てはまるような他人を攻撃することで、自分自身のイヤな部分を攻撃した気になって満足する。こうした攻撃性の発揮や敵をつくり出すこと、敵と味方を区別して認識することなどは生物学的な基盤があり、それは動物行動学によって確認できるといわれている。つまり、悪いと言われている者やシャドウへの攻撃行動は遺伝子レベルでセットされているのである。歴史的に見れば「魔女狩り」や「ユダヤ人の迫害」などは、シャドウの投影が集合的なレベルで大規模に起こった結果だといえるだろう。

元型

生物が持っている遺伝的記憶ともいえるもの。誰に教えられたわけでもなく、それぞれの種に特有の巣を作る衝動とか、ハチのダンスによる半言語的な会話など、知識を伴う「本能的な行動」の元となるシステムであると考えられている。

悪の元型	**心の中の「影」** 自我の中でマイナスの価値を与えた性質。自分の中にそれを見つけると抑圧し、他人のそれは否定しようとする。結果、自分にその性質は無いと思いこみ、他人に対してのみ、それを発見して激しく嫌悪し、憎んだり攻撃したりする。
精神の元型	**心の中の「光」** 現世的な世界に対立するものであり、肉体や本能の対極。欲望や情念といったものを否定する原理。清浄・清潔に向かう精神の原型。
意味の元型	思いもかけない「意味」や「知恵」を与える。 罪や女性的なものも内包している。
生の元型	いきいきとした感情の原理。 他の価値へと目を開かせる役割を果たす。
秩序の元型	確固とした普遍性や安定した感じを求める心。 健全さや秩序・安定を求める。

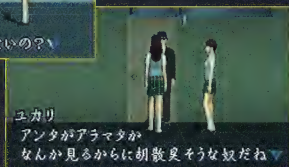
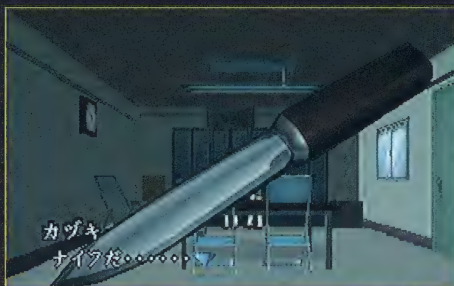
慟惡 DOWAKU

連れ去られたミカを探すうちに、様々な事件が校内で起こる

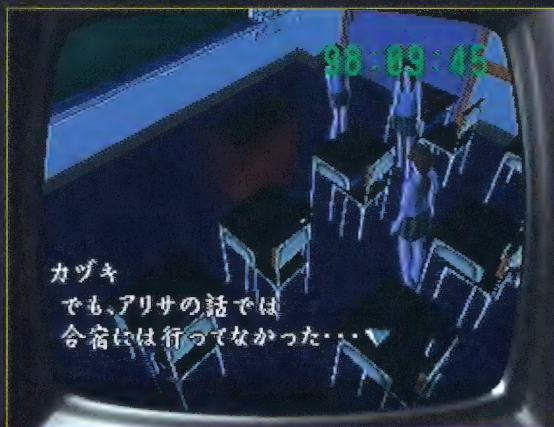
◀いろいろ校内を調べてみるが、収穫はあまりない

▶北1Fにはアラマタがいる。ユカリは初めて彼と話す

ミカを探す、ユカリとアリサ

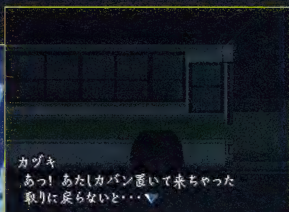
ミカはアリサと電車ではぐれて以来、学校にも姿を見せなかった。ミカのクラスメートのカヅキにも協力してもらい、他の同級生に聞いたりしたが、またサボっているくらいにしか思われていない。予定していたラクロス部の合宿にも参加していない。どこへ行ったのだろう？

▶ラクロス部の部室では、ミカのロッカーを調べるが、中にこんなものが入っていた……

◀教室で、ミカの席に近づくと手帳を見ることができる。しかし遊ぶ予定しか書いてない

誰かが見つめている

ミカのことを調べるユカリとカヅキ。2人は気づかないが、どこかにその姿をとらえているカメラがあった。そしてモニター越しに誰かが、ユカリたちを見ていて、会話まで聞かれているのである。そのカメラは、この廊下だけではなく教室などにもあるらしく、時折、モニター画面を見ているシーンが入る。

◀一体、誰に見られているのだろうか……。カメラアングルからいって天井に設置されているようだが、誰も気づいてはいないらしい

◀死んだのはミカではなく、同じクラスのミキだった

次々と殺される同級生

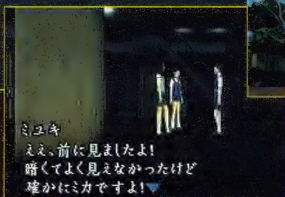
ミカの同級生から、先日、旧体育館の解体工事で下敷きになった生徒がいることを聞く。まさか……？　その日宿直だった化学の広瀬先生に話を聞きに行く。

カヅキ
あっ! あたしカバン置いて来ちゃった
取りに戻らないと・・・

▲部活が終わった後、帰りに忘れ物に気づき、学校に取りに戻ったカヅキだったが……

◀翌日、カヅキが死体で発見されてしまう。警察は転落死だと言っているが、本当なのか

夜中にミカを見たという噂

天文部のミユキが、夜中に校舎を歩いているミカを見たと言う。授業にも出ないで、夜の学校に来ているのか？　しかしその翌日、ミユキも死んでしまう……

▶校舎の外にある天文台。ユカリたちもあまりよく知らないカルトなスポットらしい

◀ミユキに、ミカのことを聞くユカリたち。ミユキはかなり自信がありそうだが……

◀翌日、アリサを探して再び天文台を訪れた時、ユカリが見てしまったもの。それは、ミユキの死体だった……

◀これが天井に設置されているカメラ。防犯用にしては数が多すぎる

▶ここでも監視されている。これが最近に起こった一連の事件と関係してるのか

至る所にカメラが設置

やはり、カメラは天井にあるようで、今日もユカリたちの様子をうかがっている。どこかに一括して監視している部屋があるようだ。ユカリたちはまだその事実に気づいてはいない。

▶ミホがシャワーを浴び終えて出ると、電話が鳴っていた。相手はフミコの母親。フミコがまだ家に帰ってきていないらしい

▲アリサは、当然ユカリとチサトも誘っておいた。ミホは1人で大丈夫だろうか

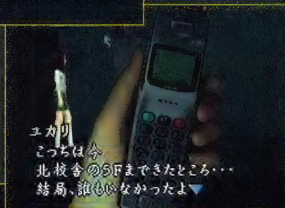
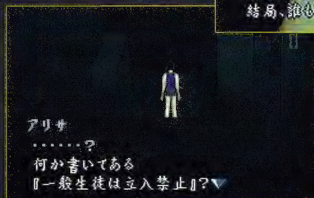
ミホは学校へ

フミコが帰ってこないという電話を受け、ミホは学校へ行ってみることにした。アリサに協力を頼んだものの、彼女は一足先に校内を捜しはじめてしまう。

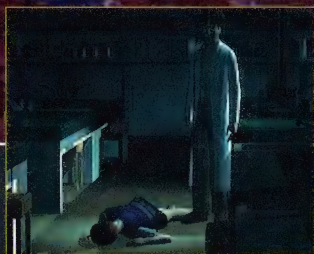
さっそく捜索開始!

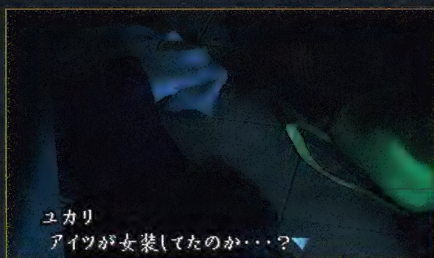
校舎内は、最近事件が多いからか警官が見回りをしている。アリサはイヤがるのだが、ここからは１人ずつ分担して探すことになる。ここで重要なのは、ユカリが北４Ｆより上にあがろうとする時、「立入禁止」という札を無視すること。ユカリが一通り調べ終わると、今度はアリサの出番となる。アリサの場合も同様に、地下への立て札を無視すること。調べなければ先に進むことはできない。

◀各階隅から隅まで捜さないと、上の階へ進めない。慎重に

▶ここでチサトは今日の宿直も化学の広瀬であることに気づく

◀行動開始が遅れ、ユカリに怒られたアリサ。仕方なく行動を始める

そして今度はミホが……

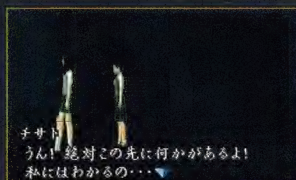
地下を調べ終わったアリサが、１階へ戻る時、生物室から物音が聞こえる。そこで見たものは、ミホの死体だった。しかも、そのかたわらには広瀬が立っている。

▲倒れているミホ。そばにいる広瀬は救急車を呼べと言うが……。彼がミホをこんな目に遭わせたのだろうか?

▶広瀬は「俺じゃない!」と言いながら、ゆっくりとアリサの方へ向かって歩いてくる。アリサが危ない!?

▲校舎をうろついていたというミカは、同じ服装をした誰かと見間違われた可能性がある

話ができすぎている?

危機一髪のアリサを救ったのは、巡回していた警官だった。そこへユカリとチサトがやってくる。準備室を覗くチサトは何かを発見したらしい。見に行くとそれは、女子生徒の制服と茶髪のカツラ、それに黄色のリュックサックだった。広瀬は女装して犯行を繰り返していたのだろうか?　しかし、この格好は……。

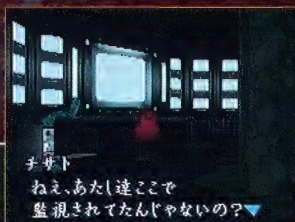
チサトのカンが冴える

アリサは先程のショックで気絶してしまったため、救急車で運ばれた。ユカリとチサトは一度校舎の外へ出たものの、チサトがちょっと気になることがあると言う。それは、先にアリサが調べていた地下２階の行き止まりの壁だ。他の場所からも調べてみるために、北校舎１階の受付へ行ってみることにした。

◀チサトが言うからには何かがあるに違いない

チサト
ねえ、ユカリちゃん？
この大理石の支柱
やたらに大きすぎると思わない？

▶この大理石の柱が校長室までつながっているようだが

大理石の柱の秘密

北校舎５階にある校長室は、先ほどユカリが調べに来た時にはカギがかかっていた。しかし、今度は何故か入れるようになっている。そこで、問題の大理石の柱はエレベーターだということがわかった。エレベーターで最初に着くところは、モニターがたくさん並ぶ部屋。そして次は手術室のような不気味な部屋である。

◀ここの部屋でユカリたちは監視されていたようだ

▶死体のパーツを集めて作られた人間標本を発見

▶文カギの閉められた校長室。そこに、エレベーターに乗って校長が現れた

◀校長が襲ってくる。このままではキミカのようにパーツの一部にされてしまう!

▶突然、大理石の柱が崩れ、校長と共に崩れ落ちていく……。とりあえず、この場は免れた2人だったが……

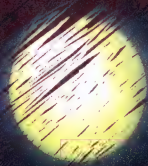
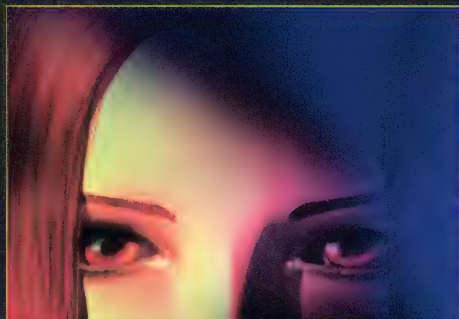
心理学講座

9 犯罪心理

なぜ人は犯罪者になるのだろうか？この研究には大きく分けて二つの方向がある。ひとつは社会・経済的要因、つまりお金がないとか、悪い友達が多いなどで、もう一つは個体要因である。個体要因とは犯罪者そのものに原因があるとするもの。生物学的には犯罪者は普通の人に比べて、脳波に異常が多いことが古くから知られていて、暴力犯は脳の行動中枢が過敏に反応しすぎるといわれている。他にも反社会病質者は、新しい刺激に慣れてしまうのが早いので、すぐに退屈な状態になる。そのため、常に新しい刺激を求めて反社会性行動（常識外れな行動）に出てしまうのである。こうした身体の問題の他に、心の問題も考えられる。フロイトの弟子であったユングは人間の態度を内向性と外向性に分け、人の心理を分類したが、犯罪者は外向性の場合が多いといわれている。最近注目されているサイコパスも犯罪に結びつきやすい。ちなみに、精神病者が犯罪を起こす率は、本当のところ少ない。病気と闘うことが大変なため犯罪を起こす余裕などないのだ。

■ユングの心理分類

	外向的	内向的
	社交的で人と関わることを好む。自分の考えとか好き嫌いよりも、周りの状況に合わせて態度を決められる。	自分の周りに壁を作って、他人に干渉されることを嫌う。周囲の期待に合わせるのではなく、自分の好みや考えで態度を決める。
思考タイプ	客観的事実を重要視して筋道を立てて考えるタイプ。物知りで、その知識は上手に分類されている。積極的な人が多く、要領も良い上にとっさの判断も的確。しかし、「自分の考え」はあまり持たず、理想や主義とも無縁。感情表現、特に愛情表現は苦手。とても忠実で誠意的。親離れがへたな人が多いのもこのタイプの特徴。	このタイプの人間は一般的に理想や主義、独創的な自分の考えを持つことが多い。物事を深く考えるが、理論のための理論に走ってしまうこともある。頑固な面を持ち、冷淡、強情、ワガママといった印象を他人に与えてしまう人もいる。異性には忠実で優しいが、感情表現は苦手で幼稚な印象を与えがち。しかし、幼稚でしつこく見えても本質的には悪意はない。自己宣伝はへたで淋しがり屋が多い。
感情タイプ	自分の感情を上手に使いこなせるタイプ。人に合わせることがうまく、人の長所を良く見抜くので友人が多い。楽観的で、献身的に活躍できる人間が多い。日頃は優しいが、時に冷淡で無責任な面が出てくることもある。思考機能が弱点で、深く考えるのは苦手な人間が多い。	一般的に好き嫌いが激しく、自己中心的とか傲慢なように見られてしまうこともある。神秘的、空想的で考えのスケールが大きい。理想主義的、倫理的で几帳面な人が多く聖人になる人もいる。しかし暴走すると手段を選ばなくなり、大悪人にもなりうる。感情表現が下手な上に他人の露骨な感情にさらされるのも苦手で嫌がる。
感覚タイプ	状況判断力に優れ、具体的な事実の観察が得意で、理論よりも事実を重視する。一見自由奔放にみえるが、実は現実にとらわれやすく堅実。しかし、不思議なことに神秘的な話を聞くのが好きな人も多い。	優れた観察力を持っているが、反応が遅いのでのろまに見えがち。受動的で穏和なおとなしい性格である。しかし、怒ると手に負えない。全体を見通す判断力には欠けるが、優れた観察力に創造性が加わると有能な芸術家に育つことがある。
直感タイプ	勘が良く、流行の予想や人の才能の発見などが得意。全体を素早く見る才能があるが、飽きっぽいのでコツコツやる仕事には向かない。神秘的に見えることもある。主義とか理想とかとは無縁で不道徳に見えることさえある。論理的に見えても、大抵は直感による優れた総合判断の結果。	勘が良く可能性の判断に優れているが、それをうまく表現できないことが多い。どこかズレた感じもあり、考えも発言も象徴的・主観的なので理解されにくいが、不思議な神秘的な才能を持つことが多い。一般的な倫理や道徳には無関心な傾向があり美意識も独特。天才だか愚人だか分からない変人も多い。

エピローグ
EPILOGUE

皆が死んで行ってしまう……。果たしてミカは助かるのか

▶チサトはその時、ミカが近くまで戻って来ていることを感じていた

◀ユカリにもミカの声が聞こえていた。ユカリに助けを求めているらしい

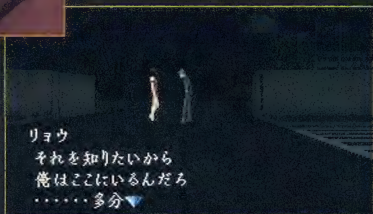
ミカを助けに……

ユカリ、チサト、アリサの３人は危険を承知で、ミカを助けに行く決心をしていた。また、電車の中から別の世界へ飛ばされていたリョウは、先に現実世界へ戻っていた。気がつくと雛城高校にいたのだ。ミカが校舎の中にいることを確信した彼もまた、助けにいくことを決心する。そしてついてこようとするルミを追い返したのだった。

▲今まで自分がいた、この世の果てについてルミに話すが、信じてもらえなかったリョウ。ミカを助けるために命がけで校舎に入る

▶以前は友達なんてくだらないと言い放ったこともあるルミ。しかし、今は友達として心の底から助かって欲しいと思っていた

狂気のメスはそこまで来た

ユカリたちは作戦を立て、待ち合わせ時間を決めていた。しかし、時間通りに行動できていたのはユカリだけだった……。アリサは急いで戻ろうとしていたが、白髪の少年に会ってしまう。チサトは、時計が遅れていることに気付き、あわてて受付へと向かった。

アリサ
・・・ここにもいないよ～
気配が消えちゃったのかなぁ？
それともパワー落ちてるのかな？

◀アリサは歩いている途中、何度も気配を感じていたがすぐ消えてしまう

アリサ
・・・もうこんなに時間経ったんだ

▶ユカリとチサトを心配させないように、急いで戻ろうとしたが

▶アリサの前に白髪の少年が現れる。「邪魔をしないでくれるかな?」という。こんなことで引き下がれない

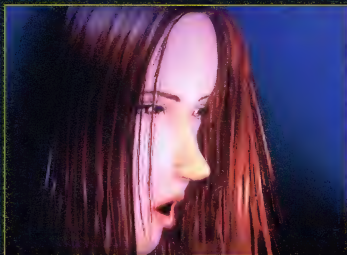
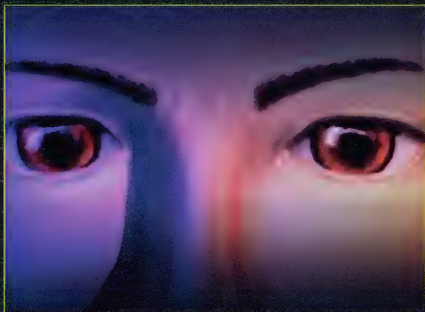
◀少年の意見を無視してアリサはミカの居場所を聞いた。この後、アリサは……

▲ユカリは誰も来ないので待ちくたびれてしまう

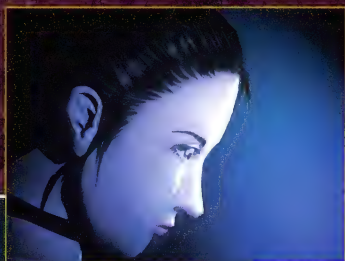
◀時計は遅れていたことに気づいたチサトは、ユカリの危険を感じ、急いで受付に向かう

操られたユカリ

チサトがユカリのもとへたどり着いた時、白髪の少年は既にそこにいた。チサトはミカがいなくなったのは、全て彼の責任だとユカリに説明する。しかし、突然、泣き出した少年に思わずユカリは気を許してしまう。チサトはユカリに逃げるよう必死に叫ぶ。だが、ユカリの身体は少年に操られてしまっていた。

▲少年は、ユカリの前でわざと子供っぽく振る舞い、油断させたのだ

▲身体が動かなくなってしまったユカリに、少年は何かを見せようとする

◀チサトは、少年が持っているものがわかるのか、ユカリに見ないよう叫ぶが……

◀少年が持っていたものは、アリサがしていたネックレスだった

▼あまりのことに絶叫するユカリ。その後、彼女は呆然と部屋を出ていってしまう

▲アリサやユカリまで犠牲にするなんて……。チサトはどうしても彼を許すことができない

▲彼もチサトに応戦する準備はできているらしく「いつでもどうぞ」と言う

◀しかし、チサトもまた殺されてしまう。少年も頭部に傷を負っていたが、数秒で修復してしまった

◀ユカリは、呆然と歩いている。玄関から出ようとすると、少年の笑い声が響く

▶そして、またしても少年の手によって1人犠牲者が出た。彼の笑い声がさらに響き渡る……

そしてリョウが立ち上がった

リョウは校舎内に突き進んで行った。玄関でヤヨイに会い、先に進むことを止められるが、振り切る。その後チサトに誘導され校長室にたどり着く。

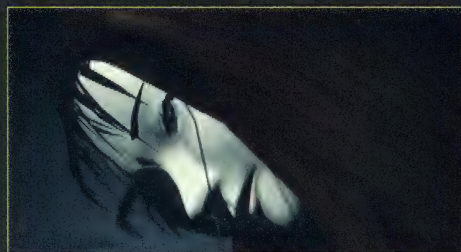
▲ミカを助けるために、動き始めたリョウ。彼女を助ける決心は固いようである

▶死んだはずのチサトがピリオドを打つのがリョウの役目だと言う

▶突如少年があらわれる。そして、リョウはこの諸悪の根元を消すことに成功するのだ

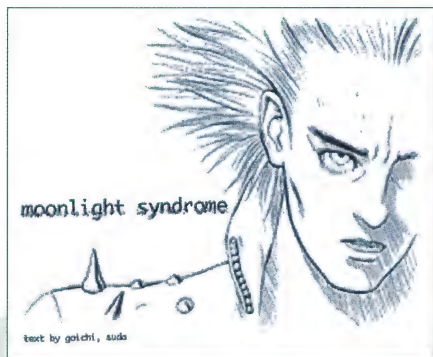
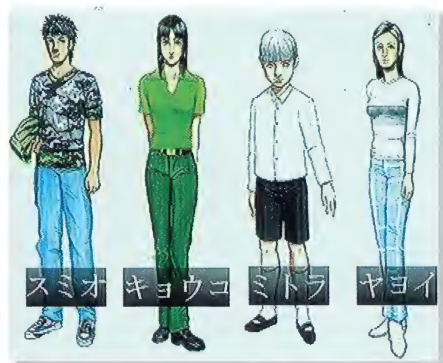
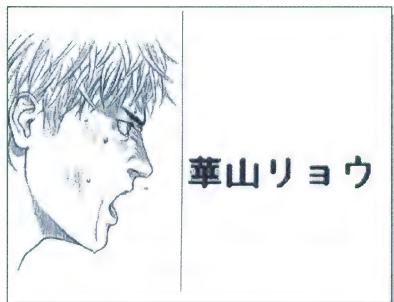
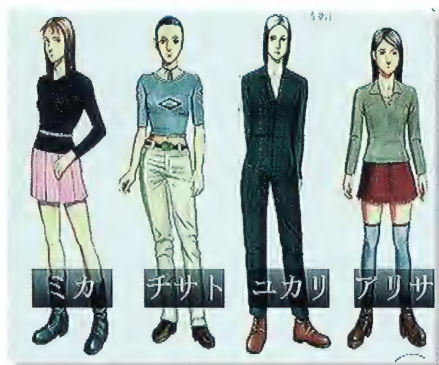
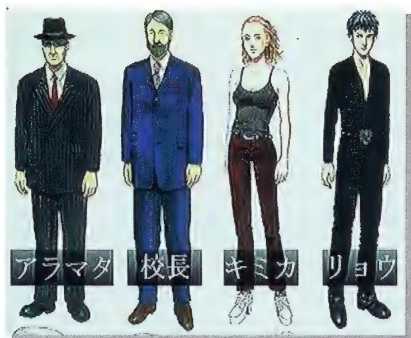
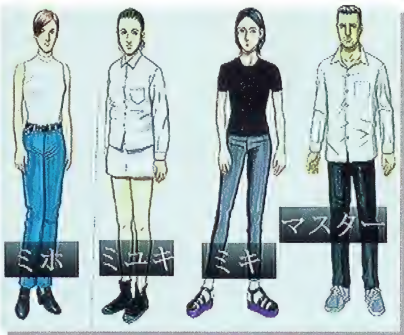
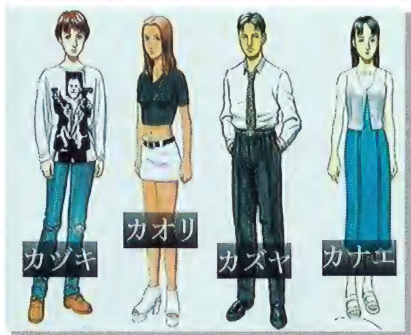
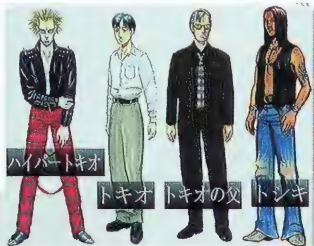
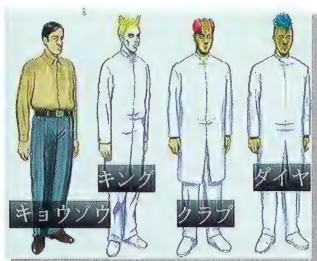
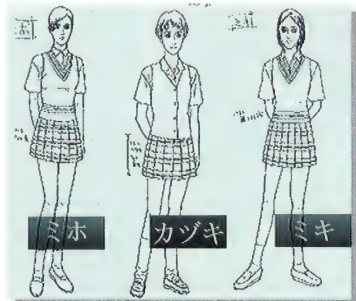
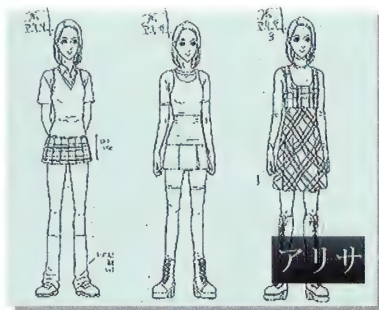
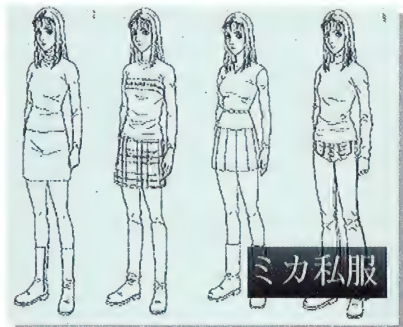
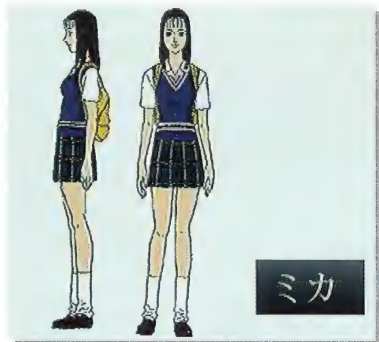
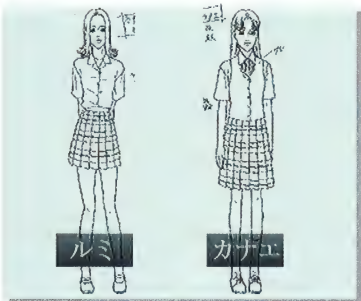
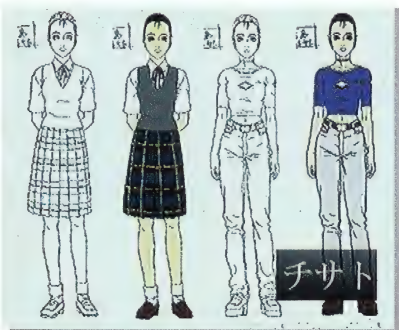
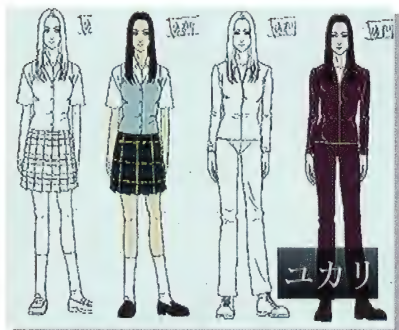
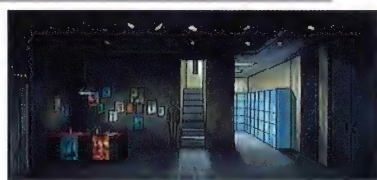
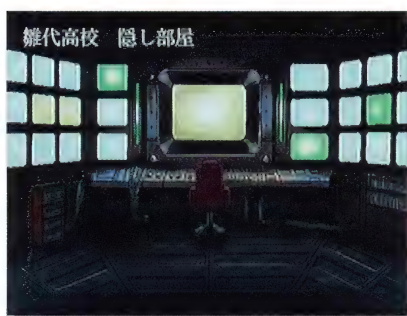
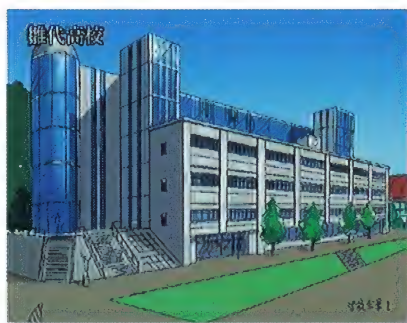
◀リョウはこの時、現実とはいいことも悪いことも含めて現実だということを理解する

そして、リョウは開放されたか

リョウによって白髪の少年は倒された。その後、リョウは再び幻想の世界へと入っていく。ヤヨイやスミオ、キョウコが現われ、リョウに語りかける。それは、今までのように、決めつけたような語り口ではなくとても優しく感じられた。しかし、彼は本当にミカを守ることができたのだろうか……？

▲すでにミカは息絶えているのだろうか？　この後、スタッフロール＆ムービーに続く

終章
設定資料

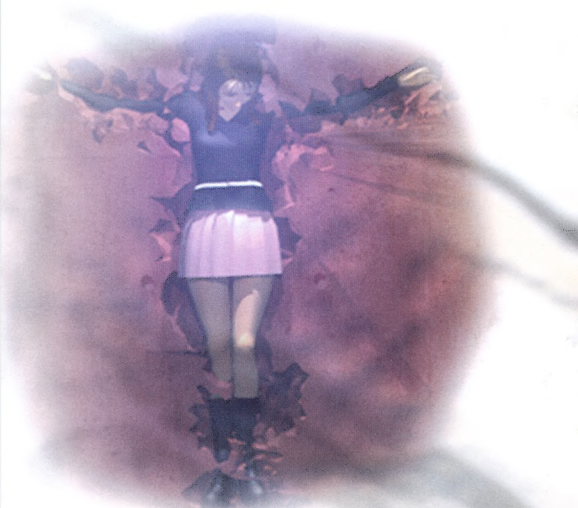
設定資料集

ここからは「ムーンライトシンドローム」に使われた設定資料を紹介していきたい。数ある資料の中から、カラーのイラストを中心に、実際に使われた企画書などいくつかピックアップしてみた。これらの資料から試行錯誤しながら今の形に決定したことがわかる。普通にゲームをプレイしているだけでは気づかない部分を、設定資料を見ていろいろ想像していただきたい

企画段階のイラスト。決定稿ではないのに、きちんとカラーで描かれている。ゲーム本編とはだいぶ様相の変わったキャラクターもいるようだ。特にリョウは、初期の頃はもっとワイルドなイメージで描かれている。

ゲーム中では出てこないキャラクターが多数描かれている。どんな役回りを考えられていたのであろうか。これを見ると、ストーリー自体も大きく変わったことがうかがえる。ファンならずとも、気になるところである。

キャラクターの決定稿だ。それほど出番のないキャラクターも、細かいところまで設定が決まっているのがわかる。前のページにある企画段階のイラストと見比べてみると、細かな違いも発見できるだろう。

イラストで見ると多少雰囲気は異なるかもしれないが、ゲームをプレイした人であれば、見覚えるのある背景ばかりのはず。ミカのマンションなどは、イラストよりゲーム画面の方が近代化している印象である。

深層心理ファイル

1997年11月21日　初版発行

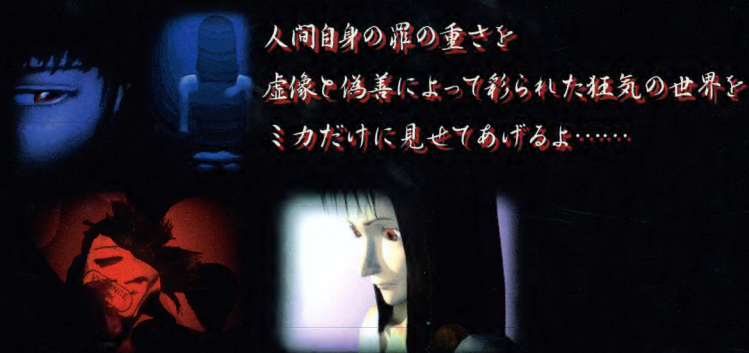
発行人 市川公士
発行所 株式会社ローカス
〒101 東京都千代田区外神田6-1-4
神田ノーザンビル4F
電話／03-3837-8125
発売元 株式会社主婦の友社
〒101 東京都千代田区神田駿河台2-9
電話／03-5280-7550（営業）
印　刷 日経印刷株式会社
協　力 ヒューマン株式会社

企画・編集　ローカス編集部

編著　STUDIO-M
編集・構成　柴原みちる
本文執筆　須藤志保
鶴野めぐみ
影山士郎
ながのまき
協力　国本進
Main Design　佐久間利佳
Design　内田幸恵
Cover Design　佐久間利佳

ISBN4－07－390107－9　C0076

ISBN4-07-390107-9

C0076 ¥1000E

発行／ローカス
発売／主婦の友社
定価：本体1000円
※消費税が別に加算されます

人間自身の罪の重さを
虚像と偽善によって彩られた狂気の世界を
ミカだけに見せてあげるよ……

好評発売中

ローカスナビブックシリーズ

■クロックタワー～The First Fear～パーフェクトガイド
A5版　定価：本体1000円
※消費税が別に加算されます

絡み合った謎をマップとクリックポイント掲載で完全解明!全てのエンディングを体験したい人に贈るパーフェクトガイド!!

PlayStation

■ラングリッサーⅣ　攻略&ビジュアルファイル
B5版　定価：本体1200円
※消費税が別に加算されます

基本的な攻略法に加え、戦略を練るために必要な数々のデータを収録。豊富なビジュアルに、ポスターも付いてキャラクターの魅力も満載。

SEGA SATURN

■ネクストキング 恋の千年王国 ビジュアルファンブック
A4版　定価：本体1800円
※消費税が別に加算されます

書き下ろしイラスト、イベントムービー、設定資料など多数収録。12人の女の子達の魅力に迫る、ビジュアル満載のファンブック!

FANBOOK

ISBN4-07-390107-9
C0076 ¥1000E

9784073901075
1920076010002

発行／ローカス
発売／主婦の友社
定価：本体1000円
※消費税が別に加算されます

人間自身の罪の重さを
虚像と偽善によって彩られた狂気の世界を
ミカだけに見せてあげるよ……

PlayStation
ムーンライトシンドローム　深層心理ファイル
発行／ローカス
発売／主婦の友社

ローカス ナビブックシリーズ

ムーンライトシンドローム
Moonlight Syndrome
深層心理ファイル

前作トワイライトシンドロームからの予習はもちろん
「設定資料」から「心理学講座」まで
ムーンライトシンドロームを徹底追求した完全攻略本!

LOCUS
HUMAN ENTERTAINMENT HUMAN

ローカス書籍情報
ローカス発行書籍に関する最新情報を、お届けしております。
FAX_BOX　03-3837-8091 BOX No.5000#
URL　http://www.locus.co.jp/book.html
E-mail　locus_info@locus.co.jp
ご注文受付　03-5280-7550（主婦の友社）